1　研究主題

自己を見つめ，考え，よりよく生きていこうとする児童の育成

2　主題設定の理由

（1）今日的な教育課題から

グローバル化が進展したことで，様々な文化や価値観を背景とする人々と尊重し合いながら生きることや，科学技術の発展や社会・経済の変化の中で，人間の幸福と社会の発展の調和的な実現を図ることが一層重要な課題となっている。また，いじめ問題の深刻化や子どもをとりまく地域や家庭の変化など，現代の子どもをとりまく環境は，以前と比べて大きく変化してきている。ゆえに，自らの人生や社会における答えが定まっていない問いを受け止め，多様な他者と議論を重ねて探究し，「納得解」を得るための資質・能力が求められるため，道徳教育は大きな役割を果たす必要があるとされている。

そこで，社会を構成する一人一人が，高い倫理観をもち，人としての生き方や社会の在り方について，時に対立がある場合を含めて，多様な価値観の存在を意識しつつ，自ら感じ，考え，他者と対話し協働しながら，よりよい方向を目指す資質・能力を備えることが重要であると考え，本主題を設定した。

（2）学習指導要領から

平成２７年３月に学校教育法施行規則を改正し，「道徳」を「特別の教科である道徳」とするとともに，小学校学習指導要領，中学校学習指導要領及び特別支援学校小学部・中学部学習指導要領の一部改正の告示を公示した。今回の改正は，いじめ問題への対応の充実や発達の段階をより一層踏まえた体系的なものとする観点からの内容の改善，問題解決的な学習を取り入れるなどの指導方法の工夫を図ることなどを示したものである。道徳科では，「よりよく生きるための基盤となる道徳性を養うため，道徳的価値についての理解を基に，自己を見つめ，物事を多面的・多角的に考え，自己の生き方について考えを深める学習を通して，道徳的な判断力，心情，実践意欲と態度を育てる。」とされている。児童を取り巻く状況は日々変化し，発達段階に応じて，答えが一つではない道徳的な課題を一人一人の児童が自分自身の問題と捉え，向き合う「考える道徳」「議論する道徳」へと転換を図るものである。「考え，議論する道徳」を目指すことで，「主体的・対話的で深い学び」にもつながっていくと考えられる。

（3）学校教育目標より

健やかな体と情操あふれる心をもち，自ら学ぶ子どもを育てる

○目標をもって，ねばり強く学習に取り組む子　　＜目　標＞

○友達と仲良くなる方法を考える，思いやりのある子＜仲良く＞

○困った時に周囲に助けを求められる子　　＜助　け＞

以上の学校教育目標の達成のため，わかる授業の実践や道徳教育の充実を図ることが必要と考えた。

（4） 児童の実態と指導上の課題から

本校では，平成３０年度から平成３１年度（令和元年度）にかけて，道徳科の研究を行ってきた。その後も道徳科で研究して得られた成果と課題をもとに，道徳科の学習の充実を図っている。道徳科の学習を通して行ってきた話合い活動の中で，児童は友達と関わり合いながら，様々な課題に対して自分の考えを深めてきた。以前に比べると，一人一人が自分の考えをもち，表現できるようになってきている。しかし，自分との関わりで考える場面では，なかなか上手く考えを表現できない児童がいる。豊かな心や人間性を育む児童の体験活動の不足が原因と考えられる。自分の価値を認識しつつ他者と協働することの重要性を実感し，理解する機会や文化，芸術を体験し感性を高める機会が限られている。さらに，自己肯定感が低く，自分の長所を言えない児童や，友達関係が上手くいかず，生活アンケートで悩みを訴える児童もいるのが現状である。これは，情報環境が大きく変化する中，視覚的な情報と言葉の結びつきが希薄になり，知覚した情報の意味を吟味したり，文章の構成や内容を的確に読み解いたりすることが少なくなっていることが原因と考えられる。児童の悩みも学校生活の中で起こるもの以外にＳＮＳでのトラブルから起こるものと変化してきている。昨年から新型コロナウイルスの影響を大きく受け，他者と関わりながら学習する機会がほとんどなくなってしまったことも関係していると考える。道徳科の学習の中でいじめ問題への対応や情報モラルに関する指導の充実を図っているところである。

そこで，児童が道徳科の学習の中で，価値を自分の問題として捉えて考え，考えたことを他者と共有し，よりよい生き方を考えられるよう資料提示や発問の工夫を取り入れた授業を展開していく。教材の中の状況や人物の気持ちに自分事として考えることや対話や議論を通して，他者の考えを理解し，自分の考えを広げ深めたり，集団としての考えを発展させたり，他者への思いやりをもって多様な人々と協働していくことができるようになるのではないかと考える。また，日々の学校生活の中で人との関わりを意識させた活動を積極的に取り入れることで，より自己を見つめながら，考えることができ，児童の道徳性を養うことができるのではないかと考えた。

3　研究仮説と手立ての実践例

（1）研究仮説

「他者との関わりを意識した教材を重点的に扱い，資料の提示や発問の工夫を行えば，児童が真剣に考え，共に語り合うことができ，自らの生き方を育んでいくことができるだろう。」

（2）具体的な手立て

児童が自己のよりよい生き方を考えるために，心に響く資料の提示方法や発問の工夫について研究を進めていく。その際に，ユニバーサルデザインの視点から，視覚化や焦点化等を意識した教材研究を行っていく。児童にとって身近な問題をとりあげたり，授業の中で特に考えてほしいところでの発問を工夫したりし，児童が切実感をもって，学習に取り組めるようにしていく。このようなことから，児童が真剣に考え（主体的な学び），共に語り合うこと（対話的な学び）ができ，自らの考えを深めることができると考えた。具体的には，以下のようなことを行っていく。

① 資料提示の工夫

○音声教材や映像教材，挿絵等で教材の内容を確認する。　＜聴覚情報，視覚情報＞

○教材文の中で価値に迫ることができる箇所を抜粋し，提示する。　＜焦点化＞

○事前に学級でとったアンケートや登場人物の関係図等を提示する。＜身近な問題提示＞＜視覚化＞

○本時の内容に関連する児童にとって身近な場面を提示する。　＜身近な問題提示＞

○思考ツールで自分の考えを整理させる。　＜視覚化＞

○自分のワークシートを振り返る。　＜思考の再構築＞

○児童の実態に合った授業の終末を考える。（詩の紹介，教師の話，児童の作文など）
＜思考の再構築＞

② 発問の工夫

○児童の考えに対して，「なぜ？」「どうして？」と教師の問い返しを行う。
＜深い学び，思考の再構築を促す働きかけ＞

○役割演技を取り入れ，教師も演技に参加しながら，演技をした児童に問い返しを行う。また，役割演技を行わなかった児童にも「○○さんは，どんな気持ちだったと思う？」「あなたならどうする？」と考えられるよう発問していく。　＜自分の課題として考えさせる工夫＞

③ 他者との関わりを意識した活動例

・縦割り活動
・低学年への読み聞かせ
・学習したことを下学年へ伝達
・人権集会　※人権集会の内容については資料編１，２ページ
・あいさつポスター作り

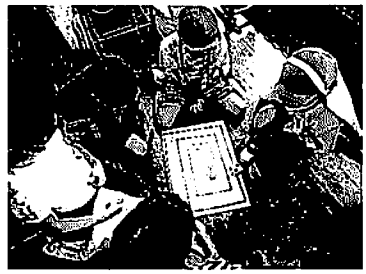
他者と共によりよく生きる実践を重ねていく。

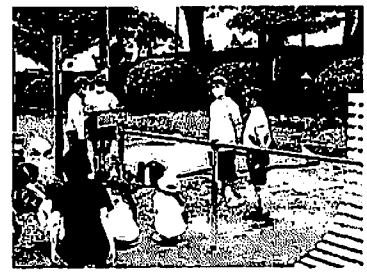
＜地域の方々から教わった昔遊び（４年生）＞

＜４年生と１年生で昔遊び体験＞

＜６年生が作ったあいさつポスター＞

＜縦割り活動の様子＞





「音声教材を活用しながら場面絵の提示の仕方を工夫した授業例」

【第１学年　Ｃ－（12）勤労，公共の精神　「こくばんとうばん」

（出典：「小学どうとく１　はばたこう明日へ」】

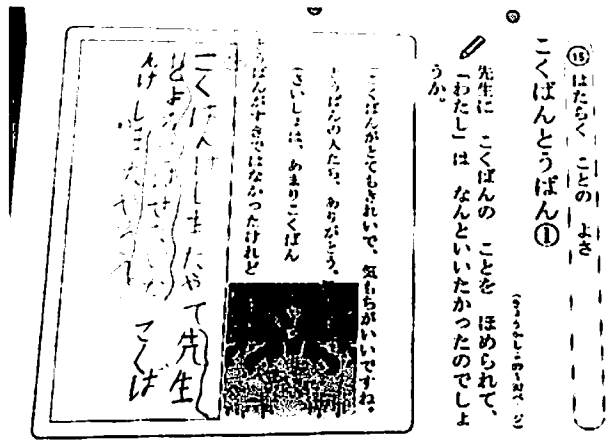
○教材について

本教材の主人公の「わたし」は，友達に誘われて気乗りしないまま「黒板当番」となったが，先生に認められ，気持ちが変化していく。学級の当番活動は，学級にあるさまざまな仕事を一人一人に割り振り，みんなが気持ちよく過ごせるようにするためのものである。しかしながら，当番を始めたころは，意欲もあり，仕事に手を抜かないが，次第に気持ちが低下していくものである。本教材でも，「わたし」は，遊びの誘いと黒板当番の仕事で揺れ動く。しかし，真摯な態度で仕事をする「あおいさん」の姿を見て，遊びの誘いを断る。「あおいさん」と一生懸命に黒板を消したことで，担任の先生からも褒められ，黒板当番のよさが「わたし」にもわかってくるのである。仕事を成し遂げた爽やかさと誇りを示した教材である。

・音声教材に合わせて，黒板に挿絵を掲示していくことで，教材の内容をしっかりととらえることができた。音声教材を途中で止め，３回に分けて聞かせ，その都度私の気持ちを考えさせていったことにより，より自分事として教材の内容をとらえ，主体的に考えることができた。

・役割演技を取り入れることで，教材の中の「わたし」の気持ちになり，友達同士で考えを深めることができた。

・終末では，学級のために行っている係に向けて感謝のメッセージを伝え，感謝の気持ちを聞くことにより，学級のために役に立っていると実感することができ，今後も係活動を頑張っていきたいという気持ちにつなげることができた。



「アンケートや人物の関係図などの提示資料を工夫した授業例」

【第３学年　Ｂ－（６）親切・思いやり　「ぽつん」（出典：NHK for SCHOOL）】

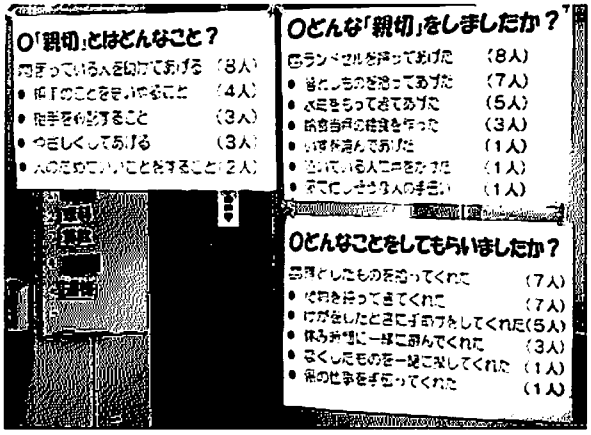
○教材について

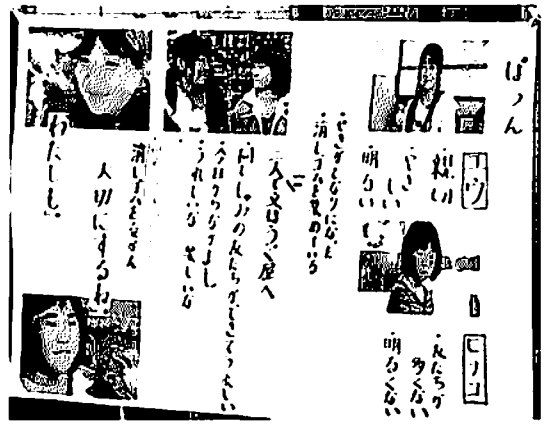
本教材の「ぽつん」は，いつもクラスの『親切』第一位に選ばれるユウといつも一人でぽつんとしているヒナコを中心とした話である。二人は席替えで隣同士になったこと，同じ消しゴムをコレクションする趣味があったことをきっかけに仲良くなった。一緒に文房具屋さんに行ったり消しゴムの交換をしたりした。けれども，仲良くなってからヒナコは何をするにしてもユウにぴったりくっついてくるようになった。ユウはある日，ヒナコの誘いを気にしながらも別の友達と遊ぶことにしたが，ヒナコの事を考えてしまい遊びに集中できない。ユウは決心してヒナコに謝りに行くが「わたしがぽつんとしているからかわいそうと思ったんでしょ。」と言われもみ合いになる。その際に，ヒナコは交換した消しゴムを落としてしまう。次の日，ユウはヒナコが無くした消しゴムと同じものを買ってヒナコの家に届けに行くが，「ユウちゃんの親切はただのおしつけだよ。もうかまわないで。」と言われてしまう。買った消しゴムを持って帰る途中，ヒナコの言葉や親切についてユウは改めて考えることになる。この教材を通して，相手のことを思いやった親切について考えることのできる教材である。

・導入で，価値（親切）について事前にとっておいたアンケートの結果を提示した。アンケートをもとに身近な親切な行動について想起させ，価値への方向付けを行うことで主体的に考えるきっかけをつくることができた。また，教材に登場する人物の関係図やおおよその話の流れを掲示することで，児童が教材を通し，価値について考えを深めることができた。

・登場人物がとった行動やその理由を考えることで，「親切」について理解を深めることができた。また，導入で提示したアンケートを振り返り，自分の学級での「親切」は本当に「親切」な行動なのかを個人で考えた。個人で考えたあと，グループで話し合い，自分たちの生活についてより深く考えることができた。

・話し合いを通して，これから自分にとって「親切」だと思っていたことが，相手にとっては「親切」ではなかったかもしれないということに気付くことができ，これからの学校生活について考えることができた。





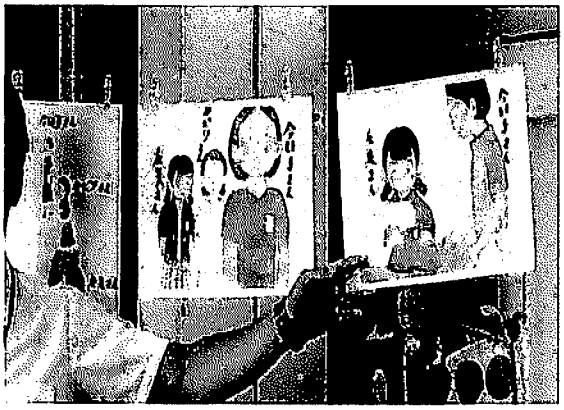
「役割演技を取り入れ，切り返しの発問を工夫した授業例」

【第６学年　Ｂ－（１０）友情，信頼　「友達だからこそ」出典「小学道徳６　はばたこう明日へ」】

○教材について

本教材は，宿泊体験学習のグループ決めを題材とした，女子の友達関係の教材である。小学校に入学した時からの友達である今日子さんと友美さん。宿泊体験のグループ決めの日，二人はくじで別々の部屋になってしまう。そこに，やはりくじで仲のよい友達と別の部屋になってしまったみどりさんが内緒でくじを交換しないかと持ちかけてくる。すぐに申し出を受けようとする今日子さんだが，友美さんは反対し，結局くじは交換しなかった。そのことに今日子さんは納得できず，次の日の朝，友美さんは今日子さんに「おはよう」とあいさつするが，今日子さんはみどりさんと一緒に教室から出ていってしまう。子どもたちの生活場面でもしばしば見受けられる状況であり，登場人物の心情を理解しやすい教材である。

・音声教材や挿絵等をうまく活用しながら丁寧に内容を確認したことで，児童は本文の内容を正確に把握することができ，主体的に今回の問題について考えようとしていた。
・役割演技を行わせることで，本時で扱う道徳的価値について，より考えを深めさせることができた。また，発問の際に，「なぜそう考えたのか」「友達の考えを聞いてどう思ったか」「自分だったらどう思うか」等の切り返しの発問を意図的に行ったことで，多様な価値観を引き出すことができた。
・日頃から，「自分だったら…」「自分と比べて…」という意識をもって道徳科に取り組むよう声かけをしている。振り返りの時間には，自分自身の思いと今回の登場人物の気持ちを比較して真剣に考える姿が見られた。



4　実践例①　（第４学年２組）令和元年度

1　主題名　　いじめを許さない心　（内容項目番号Ｃ－（１２）公正，公平，社会正義）
（教材名「プロレスごっこ」　出典「小学どうとく４（教育出版）」）

2　主題設定の理由

（１）価値について

内容項目Ｃ－（１２）は，「誰に対しても分け隔てをせず，公正，公平な態度で接すること。」とされ，民主主義社会の基本である社会正義の実現に努め，公正，公平に振る舞うことに関するであことである。その中でも「公正，公平な態度」は本教材の中心となる。

差別や偏見は，一人一人がかけがえのない尊い存在であることを無視することによって生まれる。差別とは，人と人との間に上下関係を決めつけて接することである。また，偏見とは，特定の人間に対して偏った見方をすることである。いじめは，その差別や偏見が具体的な行為となって表れたものである。いじめとは，「当該児童生徒が，一定の人間関係のある者から，心理的，物理的な攻撃を受けたことにより，精神的な苦痛を感じているもの」とされている。そして，差別や偏見がなく，正しいこと（公正）が，誰に対しても，いつでもどこでも，えこひいきなく（公平に）行われるところに正義が生まれる。その正義の実現が，いじめのないよりよい集団や社会の形成につながるのである。「公正，公平，社会主義」はいじめのない（差別や偏見のない）社会の実現のための重要な内容である。

４年生の児童は，「いじめ」がよくないことは知っている。しかし，友達の個性や特性をからかいの対象にしたり，軽はずみな言動で友達を傷つけたりすることがあり，それがいじめに発展することがある。些細なことで相手の心を傷つけ，自分は遊び半分で行っている言動が相手を不快な思いにさせてしまうということを理解しなければいけない。さらに，もし「いじめ」の場面を目撃したときに傍観者になるのではなく，勇気をもって止められることが望ましい。そのためには，「いじめ」の問題を発達段階に合わせて取り上げ，児童一人一人に自分のこととして考えさせる必要がある。

以上のように考察すると，不公平な態度が周囲に与える影響を考えさせることで，そのことが人間関係や集団生活に支障を来たし「いじめ」につながることを理解し，誰に対しても分け隔てをせず，公正，公平な態度で接することができるようになるであろうと考え，本主題を設定した。

（２）児童の実態について

本学級の児童は，今年度クラス替えはなく，同じ仲間と過ごすのは二年目である。男子の人数の方が少ないが，元気いっぱいで女子よりも行動的で活発である。男女分かれて過ごす時間もあれば，休み時間はクラス全員でレクを行い，仲良く過ごすことができる。担任から学級の様子を見ていると，まだ「いじめ」に繋がるようなトラブルはない。ただ，些細なことで言い合いになりケンカになったり，友達に対する言葉が乱暴だったりする姿が見られる。

本授業を実施するにあたり，以下のようなアンケートを行った。

（実施日　令和元年５月１０日　実施人数　１８人）

問１　あなたが「いじめ」だと思うことは何ですか。(複数回答)

・悪口（あっち行け，死ね，バカ，汚い，きもい等）　１３人
・暴力（蹴る，殴る，たたく）　９人
・仲間外れ　５人
・無視　３人
・物隠し　２人
・相手の気持ちを傷つけること　１人
・大勢対１人でのいじめ　１人

問２　今までに友達の心を傷つけてしまったなと思うことはありますか。

・ある　１３人
・ない　５人

問２－①「ある」と答えた人にききます。どんなことで傷つけてしまいましたか。(複数回答)

・ケンカをして悪口を言ってしまった。　５人
・仲間外れにしてしまった。　２人
・ケンカでたたき合いになってしまった。　２人
・友達のことを嫌がるあだ名で悪口を言ってしまった。　２人
・相手が怒ることを言ってしまった。　２人
・友達とぶつかっちゃったときに「ごめんね」が言えなかった。　１人
・自慢話をした。　１人

問３　今まで友達に心を傷つけられたことはありますか。

・はい　９人
・いいえ　８人

問３－①　「はい」と答えた人に聞きます。どんなことで傷つきましたか。

・嫌なあだ名で呼ばれた。　２人
・仲間外れにされた。　２人
・ケンカをしているときに悪口を言われた。　２人
・「毎日仲良くしようね」と命令された。他の友達と仲良くしないでと言われた。
・いつもは一緒に遊んでいたのに，他の子と遊びたいときだけ「違う人と遊んで」と言われた。
・友達の近くに行ったら嫌な顔をされた。
・急に背中を叩かれた。　各１人

問４　「いじめ」はだめなことだと思いますか

・はい　１８人
・いいえ　０人

問４－①　理由

・心が傷つくから。（心の傷は治らないから。）　８人
・人を傷つけてしまうから。　４人
・命に関わるから。（自殺につながることがあるから。）　３人
・周りの人となかよくできなくなるから。
・いじめたら，自分にも返ってくるから。
・いじめられている人が可哀想だから。　各１人

問５　自分の周りで友達の心を傷つけている人を見つけたら，あなたはどうしますか。

・「やめろ。」と言う。（止めに入る。）　９人
・傷つけている人に注意をする。　４人
・「どうしたの？」と言って理由を聞く。　２人
・いじめられている人の話を聞く。
・注意をして仲直りさせる。
・傷つけられた人をなぐさめる。　各１人

問６　どうすれば，みんななかよく過ごすことができると思いますか。

・みんなで声をかけ合う。（協力する。）　３人
・何を言ったら人が傷つくのかを考える。　２人
・仲間外れをしない。　２人
・ケンカをしない。　２人
・悪口をなくす。　２人
・相手の嫌がることをしない。
・人を傷つけるようなことはしない。
・自分がされて（言われて）嫌なことはしない。
・友達の意見を聞いたり，話を聞いたり，優しくしてあげる。
・助け合って，仲良く過ごす
・みんなが優しくする。（優しい言葉をかけ合う。）
・いじめをなくす。　各１人

以上の実態から，次のようなことがわかった。

問１の結果から，児童が思う「いじめ」についてわかった。１番多かった内容は，「悪口」だった。また，具体的な言葉を思い浮かべる児童もいた。その次に多かった内容が「暴力」で，心身共に相手を傷つけることが「いじめ」であると認識している。問２では，クラスの約７割の児童が「ある」と答え，内容について問うと，問１と同じく「悪口」が１番多かった。自分の言動により相手を傷つけてしまったと気付くことができる児童が多いと考える。問３では，問２とは逆に自分自身が傷つけられたことがあるのかを聞いたところ，半分の児童が「ある」と答えた。内容を問うと，「悪口を言われた」「あだ名で呼ばれた」「仲間外れにされた」と一人一人が傷ついた理由は様々だが，言葉によるものが多いことがわかる。問４の結果からは，４年生の児童は「いじめ」は許されることではないと

理解していることがわかった。その理由は，「心が傷つくから」と答えた児童がほとんどで，なかには「命に関わる」と答え，「いじめ」に対して深く受け止めている児童もいた。問５では，自分が実際に教材の登場人物のように「いじめ」の場面に出くわしたときにどうするかを聞いた。「止めに入る」と答えた児童が多く，正義感をもち，「いじめ」に立ち向かおうとする児童が多いことがわかった。問６では，児童がクラスみんなと仲良くするために大切にしていきたいことがわかった。日頃から協力し合うことや相手のことを考えることなどが多かった。「仲間外れをしない」「ケンカをしない」「悪口をなくす」などと答えた児童については，そういったことが起こらないためにはどうすればよいか，今回の授業を通してより深く考えさせていきたい。

（３）教材について

本教材は，「プロレスごっこ」といいながら，相手が嫌がる「いじめ」行為をしていたという話である。ある日の休み時間，教室で「プロレスごっこ」が始まる。この「プロレスごっこ」は，単なるごっこ遊びではなく，３名の児童が嫌がる児童にプロレス技を一方的にかけており，「いじめ」であるといえる。その様子を見ていた学級委員のえみが，「やめなよ。」と声をかける。しかし，いじめっ子は，プロレスごっこをしているだけで，いじめではないと答える。しびれをきらしたえみは，学級全体に「どう思う！」と呼びかける。いじめられていたりょうまも「いやなんだ！」と訴え，学級全体に「だめだよね」「よくないよね」というつぶやきが広がる。そして最後はいじめていた児童たちが謝る。

教材の最後で，学級委員のえみは「どうして，いじめのようなことが，このクラスで起きるのか，みんなで話し合おう」と問いかけ，その場にいた児童が考え始める。どのような行為がいじめに該当するのか，いじめをなくすためにはどうすればよいのか，児童にとって身近な話で「いじめ」について考えさせるよいきっかけとなる教材である。登場人物のえみの行動の正しさについて考えたあと，自分ならどうするかを考えさせ，自分なりの正しい判断と行動ができるようにしたい。

以上の分析からねらいを設定すれば，誰に対しても，差別することや偏見をもつことなく，公正，公平に接しようとすることができるようになるだろうと考えた。

（４）指導観

今回，この授業を通して「いじめ」は些細なことがきっかけで始まるということを知り，自分がもしその場に居合わせたときどう行動するか道徳的実践力を育みたい。また，「いじめ」が生まれないためには，日頃からどのように周りの友達と関わっていくことが大切なのかを考えさせたい。そのため，本授業を展開するにあたり，相手のことを考えた行動をし，「いじめ」が起きないようにするためにはどうすればよいか一人一人が考えられるよう，以下のように授業を展開していく。

導入部では，本教材の導入ページ（Ｐ３０）にある６場面の「いじめ」のイラストを提示し，「いじめ」の種類と内容を考えさせる。本時のテーマが「いじめ」であることを確認し，「いじめ」をなくすためにはどうすればよいか考えていこうと児童に投げかけ，価値への方向付けをする。

展開部では，学級委員のえみの「いじめ」を必死に防ごうとしている姿を中心に迫り，いじめ防止のために必要な心と姿について自分の考えを構築させたい。また，いじめられる側，いじめる側，傍観者の立場にも少し触れ，それぞれの立場から多面的・多角的に考えさせていきたい。中心発問で

は，えみが２回目に周りで見ている人たちを巻き込んだ言葉を取り上げ，えみの勇気ある行動やそのときの気持ちについて考えていく。その後，自分がその場にいたときにどのような行動をするか考えさせ，教材から離れて自分事として考える時間を設ける。えみの行動についてきちんと押さえ，自分も「いじめ」に対してどうにかしなければいけないと考えられるようにする。また，自分の行動について考えさせたあと，えみのように止めると答えた児童には役割演技をさせ，「いじめ」を止める時の緊張感や勇気が必要なことについて体験させる。演技をしている児童はもちろん，見ている児童も巻き込みながら，価値に迫れるようにしていきたい。

終末部では，児童に振り返りを書かせ，価値に迫って書けた児童に発表させる。いじめをなくすためにできることを自分なりにまとめ，友達の考えを聞き，よりよい生き方へと考えを深めさせたい。その後，児童の振り返りをふまえて，教師の学級に対する思いを語る。どんな学級や集団にしていきたいか担任の思いを児童に伝え，「いじめ」のない，みんなが仲良く楽しく過ごしていける学級にしていこうという思いを高めるきっかけとしたい。

3　本時の指導

（1）ねらい

○誰に対しても，差別することや偏見をもつことなく，公正・公平に接しようとする心情を育てる。

（2）仮説との関わり

本時では，以下のように指導していくようにする。

① 資料提示の工夫

導入部では，６つの「いじめ」の場面を提示し，いじめの種類や内容について確認する。その資料提示をきっかけとし，本時のテーマは「いじめ」と児童に伝え，価値への方向付けを行う。本時の授業では，教材の全文ではなく，前半部分のみを提示し，展開部で自分がこのクラスの一員ならどうしていくかと問い，自分事として捉えさせる。板書には，登場人物それぞれの気持ちをわかりやすくまとめ，それぞれの立場から「いじめ」に対する考えや思いを確認させたい。特に学級委員のえみに焦点を当て，「いじめ」を許さない気持ちに迫っていく。

② 発問の工夫

本教材の中心発問では，えみが２回目に全体に呼びかけるところを取り上げて話し合う。その際に，この言葉は誰に向けての言葉なのかを問い，展開の前半部分で取り上げてこなかった見ていただけの人（傍観者）について気付かせる。そして，えみはどのような思いで大声を出して全体に呼びかけたのか，いじめる側だけでなく，見ている人にも呼びかけた行動のよさについて児童に考えさせる。いじめられているりょうまが可哀想ということだけでなく，えみは「いじめ」についてどう考えているのかを児童に考えさせる。その際，児童の発言に対して問い返しをしながら，深く追究していく。

また，自分事として考えさせる部分では，役割演技を取り入れる。自分自身が「いじめ」の問題に直面したとき，どうするか意思決定をさせる。その後，役割演技を行い，えみのように止めると答えた児童に同じような場面を体験させる。教師自身がいじめている側の役になり，児童の

発言に対して問い返しをすることで，価値に迫っていけるようにする。演技をした児童だけでなく，見ている児童にも「どんな気持ちだったと思う」「あなたなら，どうする」と考えさせられるよう，発問をしていく。

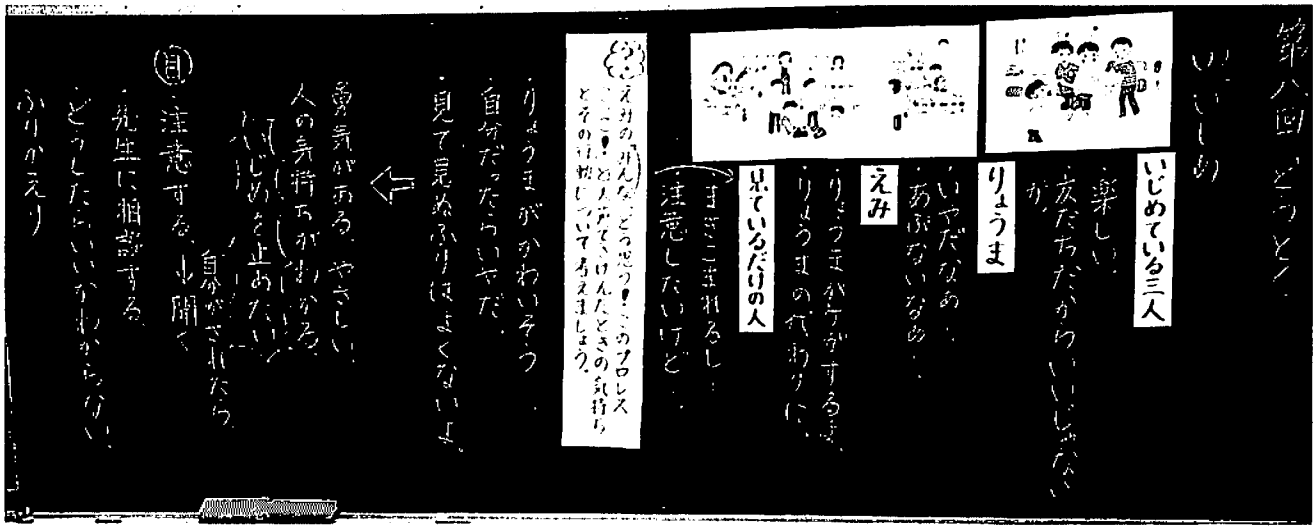
（3）展開

過程	時配	学習活動と主たる発問・予想される児童の反応	支援及び指導上の留意点・評価（※）	資料
導入	3分	1　「いじめ」はどうしてよくないのか考える。 ○次のうち，いじめにあてはまるものはどれでしょうか。 （1）仲間外れにする。むしする。 （2）いやがることをおしつける。 （3）なぐったりけったりする。 （4）物をかくす。 （5）悪口をいう。 （6）物を取り上げる。 ・全部いじめだ。 ○いじめは，なぜよくないのでしょうか。 ・つらい思いをするから。 ・心に深い傷を残すから。	・6つの場面を提示し，全ての場面がいじめにあてはまることを確認する。 ・いじめはなぜよくないのかを問い，今日のテーマは「いじめ」について考えていくことを知らせ，価値への方向付けをができるようにする。	6つの場面
展開	35分 (3分)	2　教材「プロレスごっこ」の内容を確認する。	・りょうまが「ぼくは，いやなんだ！」と叫んだところまで読む。	資料
	(7分)	3　教材について話し合う。 ○「やめなよ。」と言った時，えみはどんな気持ちだったでしょう。 ・りょうまが可哀想だからやめてほしい。 ・いじめは，このクラスで起こってほしくない。 ・怖いけど，誰かが止めなければ。 ○「僕は，嫌なんだ！」と叫んだ時，	・えみの気持ちに追っていくが，いじめる側の気持ちについても触れておく。 ・えみの言動からいじめを必死に止めようとしている気持ちに気付くことができる。 ・いじめられる側のりょうまが	場面絵

		りょうまはどんな気持ちだったでしょう。 ・えみの言うとおり，嫌だからやめてほしい。 ・なんで，嫌だってことがわからないのかな。	どのような思いだったのか考えさせることで，つらい気持ちと，嫌だと叫んだ勇気に共感できるようにする。	
	(15分)	◎えみの「みんな，どう思う！このプロレスごっこ！」と大声で叫んだときの気持ちとその行動について考えましょう。 〈気持ち〉 ・なんで，周りは見ているだけなの。 ・いじめは絶対によくない。 ・りょうまを助けないと。 〈行動について〉 ・1回目で諦めず，2回目も勇気をもって声をかけた。 ・みんなに呼びかけたところ。	・「傍観者」の存在に気付かせ，見ていただけの人も関係していることをおさえる。 ・えみの気持ちと行動についてワークシートに書かせることで，えみの「いじめ」を絶対に許さない気持ちと行動の正しさに気付くことができる。 ※えみの公正な態度について考えることができているか。 （ワークシート）	ワークシート
	(10分)	○あなたがこのクラスの一員ならどうしますか。 ・えみと同じように「やめなよ。」と言う。 ・いじめを止めたい気持ちはあるけど，実際に止めるのは難しい ・自分もいじめられるかもしれないから怖くて言えない。 ・先生に相談する。	・個人で考えさせたあとペアで話し合いをさせることで，友達の意見を聞きながら考えを深める。 ・どの考えも「いじめ」をどうにかしないといけないという思いに繋がっていれば認める。 ・児童と教師で役割演技をすることで，いじめの場面を体験する。 ・教師がいじめる側になり，問い返しをすることで，価値に迫れるようにする。 ・演技をした児童と見ている児童にどういう気持ちになったのかを発表させ，意見を共有する。	

終末	5分	4　「いじめ」をなくすために自分ができることは何か。今日の授業と今までの自分を振り返り，自分の考えを書く。 ・「いじめ」は絶対に起きてはいけない。もし，見かけたら注意できるようにしたい。 ・えみのように勇気をもって「いじめを止められる人になりたい。 ・「いじめ」を見かけたら，ただ見ているだけの人にならないようにする。	・本時の授業や今までの自分を振り返り，これから「いじめ」の問題に対してどのように自分が関わっていくかを書かせる。 ・価値について深く考えることができた児童の振り返りを紹介し，全体で共有する。 ※不公平な態度を許さず，いじめを見かけたときにどうすれば止められるのか，自分との関わりで考えることができているか。 （ワークシート・発言）	
	2分	5　教師の説話を聞く。	・児童の振り返りをふまえ，教師の学級に対する思いを語り，児童と教師の思いを確認する。	

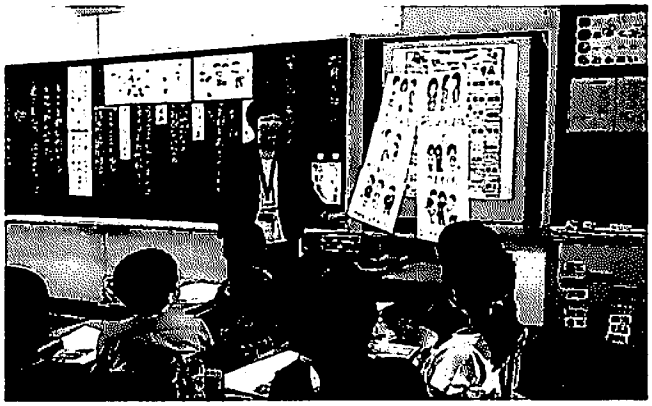
（4）実際の授業の板書



4　実際の授業の様子と成果

＜資料提示の工夫＞

○導入部で見せた６つの「いじめ」の場面を提示し，いじめの種類や内容について確認したことで今日のテーマは「いじめ」だということをおさえて授業に入ることができた。（価値への方向付けができた。）場面を提示することで児童の「いじめ」は絶対にダメだという意識も確認することができた。また，授業の終末にももう一度提示した場面を振り返り，「いじめ」は絶対に起きてはいけないことだということをおさえることができた。



６つの場面を出していく。

C「ダメでしょ。」「全部ダメ。」

T「なんでダメなの？」

C「嫌がるから。」「いじめだから。」

「学校に行きたくなくなるから。」

「心がチクっとするから。」

T「そうだね。いじめという言葉が出ました。

今日はいじめについて考えていきます。」

※６つの場面絵は資料編３ページ

○教材の全文ではなく，前半部分で切ることによって，後半の展開を知ることなく，「自分ならこのあとどうするか」と自分事として考える時間をつくることができた。

○終末部では，教師自身が学級の児童に向けて書いた手紙を読んだ。「いじめ」はダメだけで終わらないように，日頃の学校生活を振り返られる内容にした。その手紙を読むことによって，誰に対しても差別することや偏見をもつことなく，公正・公平に接することの大切さを伝え，普段の学校生活での関係性が「いじめ」につながることを考えさせることができた。終末を担任からの手紙という形で終え，余韻をもたせて授業を終えることができた。

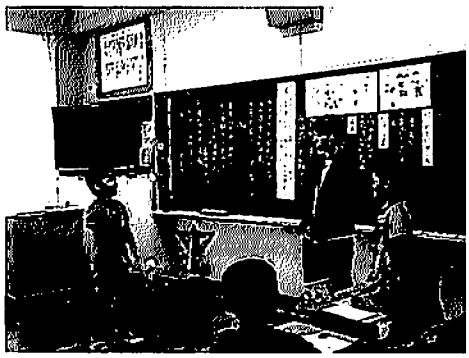
※教師の手紙は資料編３ページ

＜発問の工夫＞

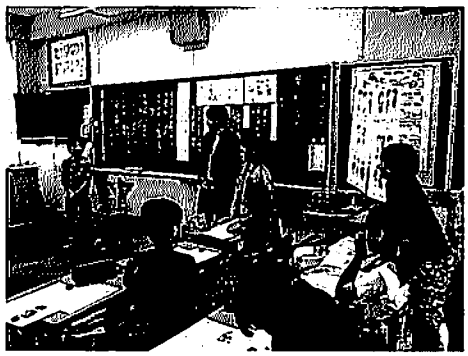
○えみが「みんな，どう思う！このプロレスごっこ！」と大声で叫んだときの場面を取り上げて，えみの言う「みんな」とは誰かを問い，傍観者の存在に気付かせることができた。さらに，えみはどのような思いで大声を出したのかを考えさせることによって，えみの勇気ある行動やいじめを絶対に許さない心に気づかせることができた。

○自分事として考えさせる場面で役割演技を取り入れ，教師がいじめている側となり，児童の発言に対して問い返しをすることで，価値に迫っていくことができた。また，見ている児童にも「どんな気持ちだったと思う。」「あなたなら，どうする。」と問い，全体で「いじめ」の場面に出くわしたときのことを考えることができた。

※児童のワークシートは資料編４ページ



C「ケガするからプロレスごっこはダメだよ。」
T「痛くない程度にしてるから大丈夫だよ。」
C「嫌がってるじゃん。」
T「別にそんなに嫌がってなさそうだよ。」
C「自分がされたらどうか考えてみてよ。」
T「…。」



T「先生は途中で黙っちゃったんだけど，何考えてると思う？」
C「謝った方がいいかなって考えてる。」
T「自分がされたら？と言われて考えちゃいました…。
　他に見ていて気付いたことある？」
C「注意の仕方も考えないといけないと思う。」
T「言い方によっては，悪化することもあるよね。

＜児童同士の話し合い活動＞

○中心発問では，ペアで考えたことを伝え合ったあとに全体で考えの共有をした。自分の考えを伝えることと相手の意見を聞くことを通して，多面的・多角的な思考をもたらすことができた。

C１「注意して聞いてくれなかったら，先生にアドバイスをもらう。」
C２「自分はいっぱい注意する。」
C３「いっぱい注意して，聞いてもらえなかったら？」
C２「それでも，やめなかったら自分がされたらどう思うか聞いてみる。」
C４「自分も同じで，相手がどんな気持ちか考えてもらう。」

実践例②　（第６学年１組）令和３年度

１　主題名　　いじめを許さない心　（内容項目番号Ｃ－（１３）公正，公平，社会正義）
（教材名「泣き虫」　出典「道徳６（光村図書）」）

２　主題設定の理由

（１）価値について

内容項目Ｃ－（１３）は，「誰に対しても差別をすることや偏見をもつことなく，公正，公平な態度で接し，正義の実現に努めること。」とされ，民主主義社会の基本である社会正義の実現に努め，公正，公平に振る舞うことに関するであことである。その中でも「公正，公平な態度」は本教材の中心となる。

差別や偏見は，一人一人がかけがえのない尊い存在であることを無視することによって生まれる。差別とは，人と人との間に正当な理由もなく上下関係を決めつけて接することである。また，偏見とは，特定の人間に対して偏った見方をすることである。いじめは，その差別や偏見が具体的な行為となって表れたものである。差別や偏見がなく，正しいこと（公正）が，誰に対しても，いつでもどこでも，えこひいきなく（公平に）行われるところに正義が生まれる。その正義の実現が，いじめのないよりよい集団や社会の形成につながるのである。「公正，公平，社会主義」はいじめのない（差別や偏見のない）社会の実現のための重要な内容である。

いじめは絶対にいけない，差別や偏見は間違っているということは知識としてわかっている。しかし，自分で物事の善悪を考えたり，判断したりすることはできても，行動に移すことができる児童は多くない。自分がとった行動により，周りからどう思われるのか，何か言われるのではないかと先のことまで見通すことができるようになったからである。いじめなどの場面に出会ったときに傍観的な立場に立ち，問題から目を背けることも少なくない。また，周りの雰囲気に流されながら，いじめる側になってしまうこともあるだろう。こうしたことは，自分自身の問題でもあるという意識をもたせることが大切である。その上で，社会正義の実現は決して容易ではないことを自覚させ，身近な差別や偏見に向き合い，公平で公正な態度で行動できるようにすることが求められる。

以上のように考察すると，自分自身の考えをしっかりもち，周囲の雰囲気や人間関係に流されない態度を育てることができるだろうと考え，本主題を設定した。

（２）児童の実態について

本学級の児童は，４年生までは２クラスに分かれおり，１クラス２０名ほどの中で過ごしていた。５年生から１クラスとなり，新たな人間関係を築いてきた。昨年度は，新型コロナウイルスの流行に伴い，５年生として学校生活が始まったのは６月からだった。グループでの学習，宿泊学習，休み時間の遊びなどの活動の制限も多くあり，友達との関わり合いは例年に比べて少なく，なかなか仲を深めていくことは難しかった。しかし，ようやく５年生の後半から少しずつ人間関係の変化が見られ，学級の中でも友達と関わりながら学習することも増えてきた。そして，いよいよ最高学年の６年生となった。友達との関わり合いでの悩みや相談が多くなり，その度に教師や親に相談しながら解決をしてきた。その中で，自分たちで話し合いながら解決していこうとする姿も見られてきた。しかし，児

童によっては，仲のいい友達とは気持ちよく過ごせるが，そうでない友達になると態度を変えてしまう児童もいる。また，注意するときには自分の気持ちを優先して，つい強い口調になってしまい，相手を傷つけてしまう場面も見られる。

本授業を実施するにあたり，以下のようなアンケートを行った。

（実施日　令和３年７月９日　実施人数　35 人）

問１　あなたが「いじめ」だと思うことは何ですか。（複数回答）

・悪口（あっち行け，死ね，バカ，汚い，きもい等）　２５人
・暴力（蹴る，殴る，たたく）　２０人
・物をとったり，隠したり，壊したりすること　８人
・無視をすること　７人
・差別をすること　３人
・ＳＮＳで友達のことをかくこと　１人
・大勢で１人をバカにすること　１人
・いじめられている人を見て見ぬふりをすること　１人
・変な噂を流すこと　１人

問２　今までに友達の心を傷つけてしまったなと思うことはありますか。

・ある　２７人
・ない　８人

問２－①「ある」と答えた人にききます。どんなことで傷つけてしまいましたか。（複数回答）

・悪口を言った　１３人
・言葉がきつくなった　７人
・悪気のない言葉を言った　５人
・陰口を言った　３人
・ふざけて叩いた　２人
・嫌な態度を出した　１人
・無視をした　１人
・ふざけて相手の嫌がることをした　１人
・嫌がらせをした　１人

問３　今まで友達に心を傷つけられたことはありますか。

・はい　１８人
・いいえ　１７人

問３－①　「はい」と答えた人に聞きます。どんなことで傷つきましたか。

・悪口を言われた　７人

・相手の言い方や言葉　6人
・嫌な態度をとられた　2人
・叩いたり，けられたりされた　1人
・仲間外れにされた　1人
・無視をされた　1人

問4　「いじめ」はだめなことだと思いますか
・はい　３５人
・いいえ　０人

問4－①　理由（複数回答可）
・相手の心を傷つけるから　１９人
・命を奪うかもしれないから　１１人
・学校に行きたくなくなるかもしれないから　8人
・みんなが悲しい，嫌な思いをするから　3人
・ずっと仲が悪いままになるから　2人
・自分がいじめられている立場なら嫌だから　1人
・色々なことに自信がなくなるから　1人
・楽しいクラスじゃなくなるから　1人
・怖くて，誰にも相談できなくなるから　1人

問5　自分の周りで友達の心を傷つけている人を見つけたら，あなたはどうしますか。（複数回答）
・止める，注意をする　１３人
・先生に相談する　１２人
・話を聞く　１０人
・傷つけられている人をかばう（助ける）　4人
・状況によって自分で解決するか，先生を呼びに行くかする　4人
・注意したいけど，注意できないと思う　3人
・自分にできることをする　1人
・その場にならないとわからない　1人

問6　どうすれば，みんななかよく過ごすことができると思いますか。（複数回答）
・人の傷つく言葉（悪口）を言わない　8人
・人によって態度を変えない（平等に接する）　7人
・いじめをなくす　5人
・先生に相談しながら，色々解決していく　5人
・相手の気持ちを考える　4人

・助け合いをしていく　3人
・ケンカをしない　3人
・笑顔で過ごす　2人
・共通の目標をもつ　2人
・みんなで遊ぶ機会をつくる　2人
・暴力をしない　2人
・ケンカをしても，きちんと話し合う　1人
・相手の嫌なことをはっきり伝える　1人
・みんなで協力し合う　1人
・言い方に気を付ける　1人

以上の実態から，次のようなことがわかった。

4年生のときと同じ内容で「いじめ」に関するアンケートを実施した。問1の結果から，児童が思う「いじめ」についてわかった。児童のほとんどが「悪口」が「いじめ」につながると考えている。学級の様子を見ていても，友達との悩みは「悪口」がきっかけとなることが多い。その次に多かった内容が「暴力」で，心身共に相手を傷つけることが「いじめ」であると認識している。問2では，「ある」と答えた児童がほとんどで，内容について問うと，問1と同じく「悪口」が1番多かった。また，つい言い方がきつくなってしまったということや自分では悪気のないつもりだったのに相手を傷つけてしまったなど，相手の捉え方によって傷つけてしまったと考える傾向が見られる。問3では，問2とは逆に自分自身が傷つけられたことがあるのかを聞いたところ，半分の児童が「ある」と答えた。内容を問うと，「悪口を言われた」「相手の言い方や言葉」「嫌な態度をとられた」という理由が多く，明らかな悪口だけでなく，相手の言い方や態度によって傷ついていることがわかった。問4の結果からは，「いじめ」は許されることではないと全員が理解していることがわかった。その理由は，「相手の心を傷つけるから」と答えた児童がほとんどだった。次いで，「いじめ」が自殺や不登校などの大きな問題に発展することもよく理解している。ニュースや新聞などで，「いじめ」の問題について知っていることも多いと考えられる。問5では，自分が実際に教材の登場人物のように「いじめ」の場面に出くわしたときにどうするかを聞いた。「止める，注意をする」と答えた児童が13名，「先生に相談する」と答えた児童が12名いた。止めないといけないという正義感ある児童はいるものの，先生に相談しながら解決していきたいと考えている児童もいる。普段から友達とすれ違い，ケンカになった際にも自分で解決していこうとする児童は少なく，教師に相談をもちかける児童が多い。また，「いじめ」を止めることによって，関係や状況が悪化したり，自分がいじめられたりと先のことを心配できるようになったと考える。他の理由では，いきなり止めるのではなく，「話を聞く」と答えた児童も10名いた。見たままを信じるのではなく，両者の話を聞かなければ，どちらが悪いとは言えないと公平な判断をしようとしている児童もいた。問6では，どうすればみんな仲良く過ごすことができるかを聞くと，「悪口を言わない」「人によって態度を変えない」と答えた児童が1番多かった。6年生になり，人間関係での悩みは増え，苦手な友達とも上手く付き合っていくことの難しさを感じている様子が見られる。それでも，誰に対しても平等に接していかなければならないと理解はしている。クラスの中で「いじ

め」の場面を見かけたときに自分は何ができるのか，見過ごさずに何か行動を起こせるのか，今回の授業を通してより深く考えさせていきたい。

（3）教材について

本教材は，いじめをする子，いじめられる子，そしてそのいじめを見て見ぬふりをするクラスのみんなという「いじめの構造」がそのままわかりやすい形でかかれている。主人公の私は，いじめを認識しながらも，みんなと同じように行動しているほうが楽だからという理由で，一緒にいじめに加担してしまう心の弱さをもっている。そんな私が見ているクラスであったいじめ問題が描かれた話である。

私のクラスでは，藤井くんといういじめられっ子がいる。藤井くんに対して，中心となっていじめているのはトオルくんだが，そのトオルくんに同調して私や周りで見ている人たちも一緒になって「いじめ」に加担したり，見て見ぬふりをしたりしている。ある日，何かの拍子でトオルくんが藤井くんの机のそばでつまずきそうになったときにわざと足を出したなと藤井くんに文句を言い始める。自分の席にきちんと座っていた藤井くんだが，いつものように「くさい」「態度がでかい」とトオルくんやその仲間たちからからかわれ始める。そんなとき，勇気くんが「いじめ」を止めようと声をあげた。勇気くんは転校生で，転校初日に「泣き虫」というあだ名がつけられていた。トオルくんたちが教室に迷い込んできた子スズメを追いかけ回して遊んでいるところを泣きながら抗議してやめさせたからだ。そんな勇気くんがトオルくんの前に立ちはだかり，「いじめ」を止めているところを私はただ見ているだけだった。勇気くんはいじめているトオルくんに対しても，いじめられていても何も言い返さない藤井くんに対しても「ひきょう者」と訴える。勇気を振り絞って「いじめ」の仲裁に入ったものの，藤井くんは「ぼくなら、いいんだ。」と言い，その言葉をきっかけに勇気くんはついに涙を流し始める。その様子を見て，最後は藤井くんやクラスのみんな，トオルくん，私の心が動いていくという話になっている。

教材の中では「いじめ」について考えさせたい場面が多くあり，その中でも今回は私という傍観者の気持ちに迫っていく。教材を前半部分のみを扱い，自分が私のような傍観者の立場なら，どのような行動を起こすのかを考えさせ，自分なりの正しい判断と行動ができるようにしたい。

以上の分析からねらいを設定すれば，誰に対しても差別をすることや偏見をもつことなく，公正，公平な態度で接し，正義の実現に努めることができるようになるだろうと考えた。

（4）指導観

４年生のときに「プロレスごっこ」という教材を通して，「いじめ」について考えた。４年生だった頃と今の「いじめ」に対する考えやクラスの状況は違ったものとなっていると考える。しかし，どんなときでも，どのようなクラスであっても，「いじめ」を絶対に許さない心を持ち続けてほしい。４年生では，「いじめ」を見かけたときに何ができるかを考えさせ，公正・公平な態度でクラスの友達と関わっていくことの大切さについて考えさせた。６年生では，「いじめ」は絶対にダメだという気持ちをもちながら，いじめている人やいじめられている人にどのように声をかけていくのか，周りの状況や一人一人の気持ちに寄り添って「いじめ」問題を解決していけるのかを考えさせたい。本授業を展開するにあたり，「いじめ」の場面を見かけたときに，今の自分にできることは何か，そして

今のクラスで「いじめ」が起きないようにするにはどうすればよいか一人一人が考えられるよう，以下のように授業を展開していく。

導入部では，４年生のときにも使用した６場面の「いじめ」のイラストを提示し，共通することが「いじめ」だということに気付かせる。また，事前にとった「いじめ」に関するアンケートを提示し，本時のテーマが「いじめ」であることを確認する。「いじめ」をなくすためにはどうすればよいか考えていこうと児童に投げかけ，価値への方向付けをする。

展開部では，いじめている人，いじめられている人などの気持ちを考えさせ，中心発問では「いじめ」をただ見ていることしかできない私の気持ちについて問う。「いじめ」があることはわかっているし，止めたいけど，何もできない葛藤する気持ちに共感させたあと，自分が私ならどうするか考えさせる。どうにかして「いじめ」を止めなければいけないけど，止めることの難しさを私の気持ちで共感しているため，どうすればいいのかわからない児童もいると考える。一人一人が自分の考えをもったあと，グループで話し合い，どのような方法で止めていくのか，悩んでいる児童は友達の考えを聞きながらどうすればよいかを考えさせる。グループで話し合うことで，自分の考えを相手に伝えながら本当にその方法で大丈夫なのか，思考が整理されると考えた。グループで意見の共有をしたあと，全体でも取り上げ，一人一人が「いじめ」に対して真剣に向き合い，どうにかしていきたいという思いをもっていることを共有する。その後，教材から離れ，自分たちのクラスについて考える。「いじめのないクラス」にするためには，今のクラスにどんなことが必要かをグループで思考ツールを用いながら考えさせる。思考ツールの中ではクラゲチャートを用いることで，「いじめのないクラス」に向けて，自分のクラスに必要なことを５つに焦点化させたい。

終末部では，ある児童の「今の学級について」という作文を紹介する。その作文を聞いて，今回の授業を振り返り，これからどのように学校生活を送っていきたいかを書かせる。また，その際に４年生のときの「いじめ」について書いたふりかえりも読ませる。今の学級で，また卒業後の新たな学級で「いじめを許さない心」をもち続けて生活していこうという思いを高めるきっかけとしたい。

３　本時の指導

（１）ねらい

○不正を許さない断固たる姿勢をもち身近な差別や偏見に向き合い，正義の実現に努めようとする実践意欲と態度を育てる。

（２）仮説との関わり

本時では，以下のように指導していくようにする。

① 資料提示の工夫

導入部では，６つの「いじめ」の場面を提示し，共通することは何かと問う。この場面提示は４年生のときに「プロレスごっこ」という学習をしたときに提示したものと同じものを扱う。また，事前に行ったアンケートの結果も提示し，学級のみんなが「いじめ」に対してどのような認識をもっているのかを全体で確認する。その資料提示をきっかけとし，本時のテーマは「いじめを許さない心」と児童に伝え，価値への方向付けを行う。

展開部では，傍観者である私に焦点を当てながら「いじめ」について考えさせたいため，教材

の全文ではなく，前半部分のみを提示することとした。板書には，登場人物それぞれの気持ちや立場を簡単にまとめ，それぞれの立場から「いじめ」に対する考えや思いを確認させたい。そして，本時で追っていきたい私の気持ちやセリフについてはきちんとおさえ，板書にも児童の意見を残していくようにする。

教材を通して「いじめ」について考えを深めた後，自分の学級で「いじめ」が起きないためには，どのようなことか必要かを考えさせる。その際に思考ツール（クラゲチャート）を活用し，グループで話し合わせる。「いじめのないクラス」を目指すために５つの必要なことをクラスの実態や児童の生活経験から考えさせる。

終末部では，児童の学級に対する思いを書いた作文を紹介する。４年生ときは，教師の思いを書いた手紙を読んだが，身近な同じクラスの友達が書いた作文を読むことで，より共感したり，考えさせられたりし，深い学びになるのではないかと考えた。

② 発問の工夫

教材はあらかじめ読ませておき，登場人物は誰がいたのかを児童に発表させる。その際に誰がどういう立場なのかを問い，私はただ見ているだけの傍観者ということを気付かせたい。また，トオルくん，藤井くん，勇気くん，私だけが，この話に関わっているのかを問い，私以外にも，「いじめ」を見て見ぬふりをしている人たちがいることをおさえる。

本教材の中心発問では，トオルくんや藤井くん，勇気くんのやりとりを見ていた傍観者の立場の私の気持ちについて問う。私は「いじめ」があるとわかっていながら，学校生活を送っていたことを本文中の「私はとても複雑な思いなのです。」「私も無関係だとは絶対に言えないのです。」という言葉からおさえる。「なぜ」「どうして」と問い返しをし，「いじめ」はダメだとわかっていながらもどうすることもできなかった複雑な思いに共感させたい。

私の気持ちについて考えさせて，発表したあとには自分が私ならどうするか考えさせたい。私の気持ちに共感するところが多く，止めたいけど，どうしたらよいかわからないという児童もいると考える。その際には，一人で解決するのではなく，周りにいる人を頼ってもいいことを助言する。その後，グループで話し合い，それぞれの考えを共有する。話し合う前に友達の考えを聞いて，共感することや質問したいことなどを考えながら聞くようにと声をかける。

（３）展開

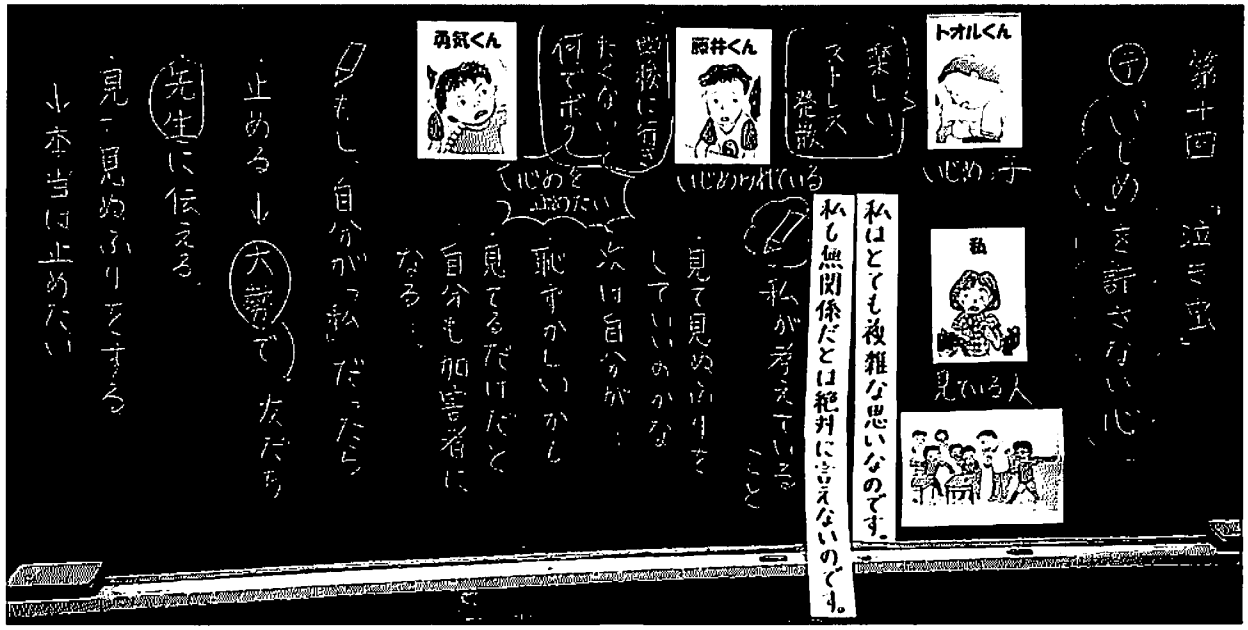
過程	時配	学習活動と主たる発問・予想される児童の反応	支援及び指導上の留意点・評価（※）	資料
導入	３分	1　「いじめ」はどうしてよくないのか考える。 ○６つの絵を見て，共通することは何でしょうか。 （１）仲間外れにする。むしする。 （２）いやがることをおしつける。	・６つの場面を提示し，全ての場面がいじめにあてはまることを確認する。	６つの場面

		（3）なぐったりけったりする。 （4）物をかくす。 （5）悪口をいう。 （6）物を取り上げる。 ・全部いじめだ。 ・されたほうは嫌な気持ちになる ○いじめはだめなことだと思う理由について見てみましょう。 ・相手の心傷つけるが１番多い。 ・自殺や不登校につながると答えた人が多い。	・事前に答えたアンケートを提示し，クラスのみんなが「いじめ」に対してどのように思っているのかを確認する。 ・いじめはダメだとわかっていてもなくならないのはなぜかと問い，今日のテーマは「いじめ」であることを知らせ，価値への方向付けができるようにする。	アンケート
展開	３５分 (3分)	2　教材「泣き虫」の内容を確認する。	・資料をあらかじめ読ませておき，登場人物やどのような状況なのかを確認する。	資料
	(3分)	3　教材について話し合う。 ○いじめの中心となっているトオルくん，いじめられている藤井くんはどんな気持ちでしょうか。 〈トオルくん〉 ・遊び半分でトオルくんをからかっている。 ・いじめているという自覚はないと思う。 〈藤井くん〉 ・やめてほしいけど，怖くて言い返せない。 ・我慢さえ，していれば…。	・いじめる側といじめられている側の気持ちについても触れておく。 ・いじめられる側の藤井くんがどのような思いだったのか考えさせることで，つらい気持ちと一人ではどうすることもできなかった気持ちに共感できるようにする。	場面絵
	(10分)	◎「私はとても複雑な思いなのです。」 「私も無関係だとは絶対に言えな	・私がいじめはダメだとわかっていても，周りに合わせた行	ワークシート

		いのです。」と言った私はどんなことを考えていたのでしょうか。 ・いじめがあるとわかっていても，何もできず，見過ごしてしまったから複雑な思いでいる。 ・いじめを止めたい気持ちはあるけど，みんなに合わせた行動をとってしまったから関係がないとは言えない。	動をすることにより，いじめる側になっていることに気付かせる。また，「傍観者」の存在に気付かせ，見ていただけの人も関係していることをおさえる。 ・私のいじめを認識していても，見て見ぬふりをしたり，いじめている人と同じ行動をとったりした弱い気持ちについて共感させる。	
	(10分)	○あなたが私ならどうしていましたか。 ・みんなと同じような行動をとったりせず，藤井くんの味方になる。 ・周りの友達に相談をしたり，先生に相談したりする。 ・どうしていいかわからず，私と同じように見ているだけになると思う。	・いじめが起きているということを理解し，いじめを見過ごさず，自分にできることを考えさせる。どうしていいかわからないという児童には，先生や友達を頼ってもいいことを助言する。 ※「いじめ」を解決するための大切な姿について考えることができているか。 （ワークシート） ・個人で考えさせたあとペアで話し合いをさせることで，友達の意見を聞きながら考えを深める。 ・どの考えも「いじめ」をどうにかしないといけないという思いに繋がっていれば認める。	
	(9分)	○「いじめ」のないクラスにしていくために，今の自分やクラスに必要なことは何でしょうか。 ・ケンカをしても，相手の話をよく聞いて解決していく。 ・どんな友達に対しても態度を変えない。	・グループでクラゲチャートを用いながら，「いじめ」のないクラスにしていくために必要だと思うことを５つ考える。 ・グループごとに考えたものを	クラゲチャート

		・みんなが「いじめ」はダメだという気持ちをもつ。 ・「いじめ」に繋がりそうなことを見かけたら，見過ごさずに注意をする。 ・お互いのことをよく知る。	発表し，共通点や相違点を見つけさせる。	
終末	5分	4　児童の作文を紹介する。	・児童の今のクラスに対する思いとこんなクラスにしていきたいという思いが書かれた作文を紹介する。	児童の作文
	5分	5　「いじめ」をなくすために自分ができることは何か。今日の授業と今までの自分を振り返り，自分の考えを書く。	・本時の授業や今までの自分を振り返り，これから「いじめ」の問題に対してどのように自分が関わっていくかを書かせる。 ・4年生のときに書いた「いじめ」についてのふりかえりを見て，自分の気持ちの変化に気付かせる。 ※「いじめ」を見かけたときに見過ごさずに自分なりの解決方法を考えて，実行していきたいという思いをもつことができたか。 （ワークシート）	

（4）実際の授業の板書


第十四 「泣き虫」
㊐ いじめを許さない心
トオルくん
いじめっ子
楽しい
ストレス発散
私
見ている人
藤井くん
いじめられている
勇気くん
学校に行きたくない
何でボク
いじめを止めたい
私が考えていること
見て見ぬふりをしていいのかな
次は自分が…
恥ずかしいから
見てるだけだと自分も加害者になる…
もし、自分が「私」だったら
止める↓
大勢で
友だち
先生に伝える
見て見ぬふりをする
本当は止めたい
私はとても複雑な思いなのです。
私も無関係だとは絶対に言えないのです。

4　実際の授業の様子と成果

<資料提示の工夫>

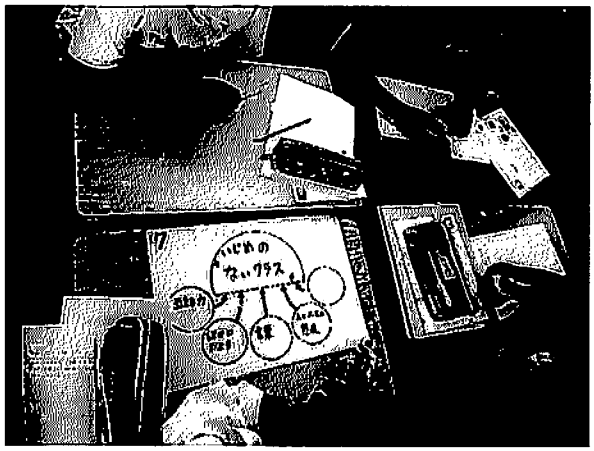
○導入部で６つの場面を見せて，児童に共通していることを聞くと，「いじめ」というキーワードがすぐ出てきた。また，なぜ「いじめ」ということがわるのかと聞くと，「いじめ」に繋がる状況や相手の様子などに気付いている児童が多かった。また，アンケートの結果も提示し，学級全体の「いじめ」に対する認識も確認することができ，価値への方向づけをすることができた。

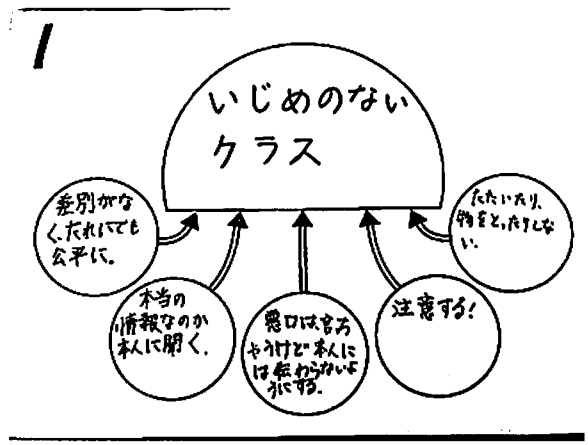
T「この絵の共通することって何でしょう？」
C「いじめ！」
T「なぜ，いじめだと思いましたか？」
C「１人じゃなくて，２人とかで嫌がらせをしているから。」
「いじめをされている人が嫌な顔をしているから。」
「相手が傷つく行動だから。」

○教材を前半部分まで児童に提示することで，私の「いじめ」があるのはわかっていても，どうすることもできない複雑な気持ちに迫ることができた。

○思考ツール（クラゲチャート）を用いることで，今のクラスに必要なことをグループで相談しながら５つに絞ることができた。グループで１枚の思考ツールに何を書くかを自分たちの生活を思い起こしながら相談して書くことができた。

※アンケート，思考ツールは資料編５ページ





○終末部では，児童の学級に対する思いを書いた作文を紹介した。同じクラスの友達が書いたということで，より共感し，「いじめ」と自分のクラスの関係をより身近に感じることができた。また，最後のふりかえりを書く際にも作文を通して思ったことや感じたことを書いている児童もいた。

※児童の作文は資料編６ページ　　※児童のワークシートは資料編７ページ

＜発問の工夫＞

○登場人物を問うと，児童からトオルくん，藤井くん，勇気くん，私以外にも見ているだけのクラスの人がいると気づくことができていた。また，私はどういう立場なのかを聞くと，ただ見ているだけの人（傍観者）だということも児童から引き出すことができた。

○中心発問とした私はどんなことを考えていたのかを考える場面では，共感したり，よく考えたりすることができていた。また，考えたことに対して「どうしてそう思ったの」「なんで，迷ってるの」などと問い返し，より深く私の気持ちに迫ることができた。しかし，教材の登場人物については時間をかけず，その後の自分が私ならどうしていたのかを考える時間に重きを置いた方がよかった。

○自分ならどうするか聞いた場面では，自分事としてよく問題を捉えて，考えることができていた。私の気持ちに共感し，どうするか迷うという児童もいたが，「助ける」「助けない」の立場にはっきり分かれて話し合うとより深い内容になったかもしれないという参観者からの意見もあった。

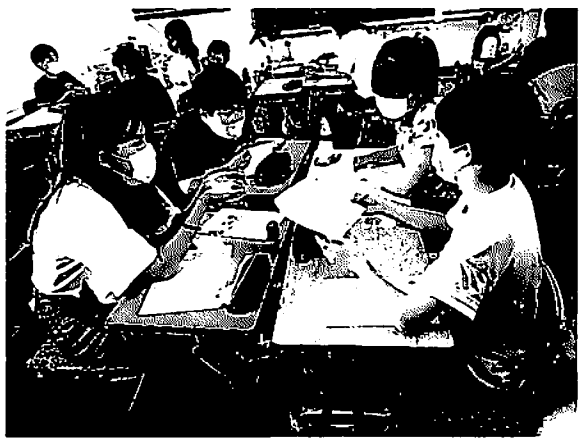
↓

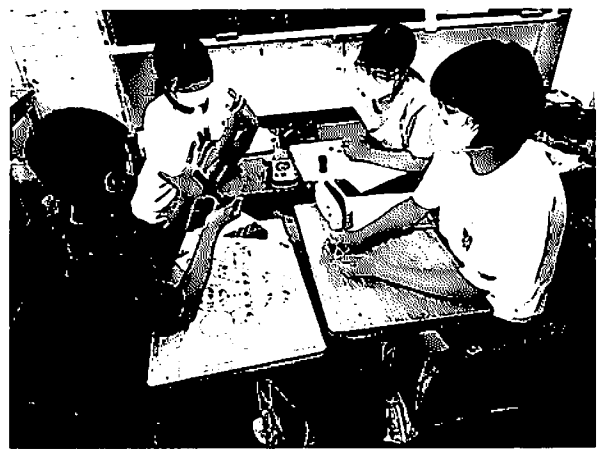
＜児童同士の話し合い活動＞

○自分が私だったらどうするかということを考えたあとに，グループで考えを共有した。私の気持ちと同じように，止めたいけど止められないという児童も多くいた。グループで話し合う中で迷っている児童も色々な解決方法を聞いて，自分なりにできることを考えることができた。

○「いじめのないクラス」にするためには，どんなことが必要かをグループで話し合わせた。それぞれが普段の学校生活を振り返りながら相談し合う姿が見られた。また，導入部で提示した６つの場面を見ながら今の学級に必要なことを考えるグループもあった。

○思考ツールを使って，５つの考えを絞り出すことができたが，さらに絞り，自分たちのクラスで明日からどう過ごしていくのか，その後の活動が大切になる。





＜４年生から６年生の児童の変容と成果＞

○児童が興味や問題意識をもつことができるような身近な課題となる教材を扱うことで，登場人物の判断や心情を自分との関わりにおいて多面的・多角的に考えることができた。

○４年生の時の授業で提示した場面絵と同じものを扱っても，発問を変えることで児童の多様な考えを引き出すことができた。

○終末部のふりかえりを書く際に，４年生のときに書いた「いじめ」のふりかえりをもう一度読ませた。そのときと「いじめ」に対する思いは変わったのか，それとも変わらなかったのか，より深く「いじめ」について考えることができたのかなど，自分で振り返ることができた。

○他者との関わりを意識した教材を重点的に扱うことで，児童自身の学校生活においての他者との関わりを真剣に考え，友達と話し合うことができた。

○発達段階によって，「いじめ」を見かけたときにとる行動や考えが変化した。しかし，どの児童も「いじめ」をどうにかしていきたいという思いは変わらなかった。また，学年が上がるにつれ，冷静に判断しながらいじめ問題を解決していこうという思いをもっていることがわかった。

【「いじめ」の場面を見かけたときにとる行動の変容】

４年生	６年生
○A児 怖いけど，止める。「やめなよ。大きな怪我につながるでしょ。」と言う。	傍観者の人達で話し合って，トオルくんたちを止めにいく。一人だと少し勇気がいるけど，何人かでいくとだいぶ変わるし，いろんな人の意見をしることができるから。
○B児 いじめをしている人がいたら，すぐに声をかける。いじめやだめな遊びをしていたら，先生に言うか，自分でどうにかする。	私だったら，見ていないで，見ているだけの人と相談して，友達をさそっていじめている人といじめられている人の間に入って，いじめをとめる。何か言われたりしたら，先生や親に言う。
○C児 えみみたいに言えないけど，自分と他の人と一緒に言う。	迷わずすぐに止めにいく。周りの人なんて気にしないで止めにいく。「もうやめなよ。藤井くんがかわいそうじゃん。これで学校に来なくなったらトオルくんの責任だよ？」と言う。
○D児 えみみたいに３人組に注意してから，りょうまを助けてあげる。それで，３人組に「自分がやられたらどんな気持ちになる？」と聞く。	いじめを止めたいと思っていて，自分と同じ気持ちの人と２～３人で止める。

※児童のワークシートは資料編８，９ページ

5　研究全体を通しての成果と今後の課題

＜成果＞

○場面絵や映像を見ることで，児童がより身近な問題として捉え，価値について深く迫ることができた。

○導入時にアンケートの結果を活用することで，児童が自分以外の人がこれから考える問題について，どう感じているのかを視覚的に理解することができた。

○アンケートを活用することで，授業を終えた後に自分たちのことに戻ることができ，効果的だった。

○教材を全文提示するのではなく，必要な部分だけを提示することで，その後の展開を自分事として考えたり，その場面の登場人物の心情を深く考えたりすることができた。

○ワークシートを積み重ねていくと，同じ価値項目の学習をしたときに振り返ることができ，児童自身が変容を感じることができた。

＜課題＞

●教材を必要な部分のみ扱う際には，なぜその場面で区切るのか，児童に考えさせたい場所は何なのか，よく考えた上で扱わなければならない。

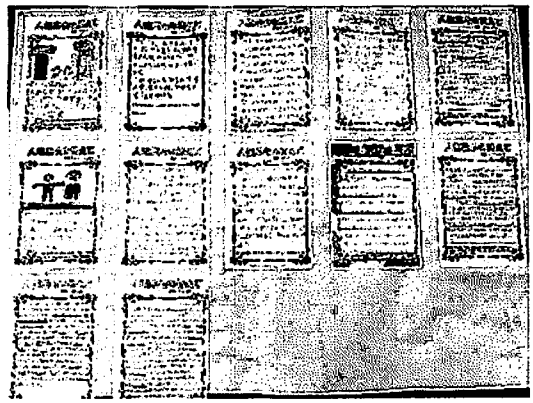
●想定していた意見や考えが出なかったときの切り返しを意識しすぎてしまい，本時で考えさせたい価値への進め方が強引になってしまったり，価値に迫るために一問一答になってしまったりすることがあった。教師が一律のゴールへ導く意識が強いと思われる。

●価値に迫ったり，自分事として捉えさせたりしていくためにも，中心発問の位置は十分に考えていかなければならない。

●学習内容が多すぎて，時間が足りないことがあった。４５分の中でどこに重きをおいて，ここまで考えられたらよいというゴールを明確にしなければならない。

＜人権集会の内容＞

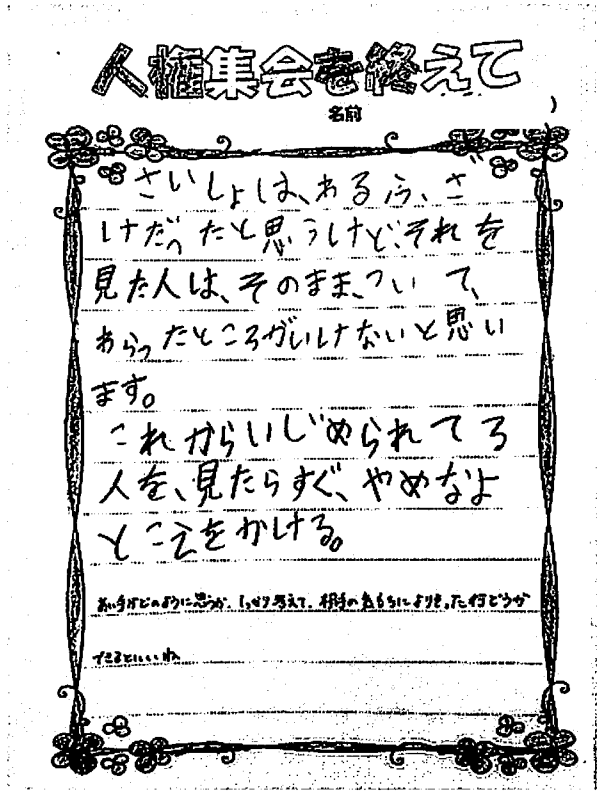
ＤＶＤの内容について
「いじめと戦おう！～私たちにできること」
　本教材は鑑賞した児童がいじめの、当事者、被害者、傍観者の立場を理解し，考えることができるドラマ形式の教材である。クラスの大多数を占めるであろう傍観者が如何にして“いじめの構図”を崩せるかという視点を中心に、いじめ問題全体について話し合うために活用した。



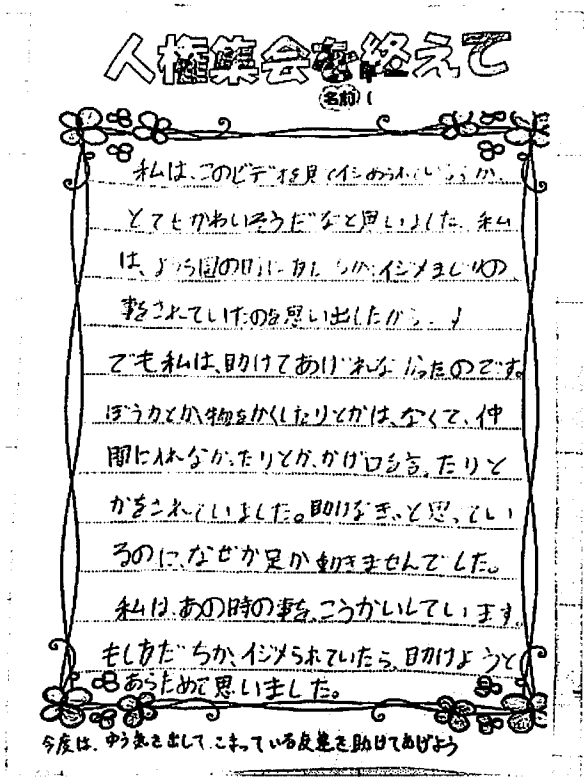
＜各学年のふりかえり＞

１年生

２年生



3年生



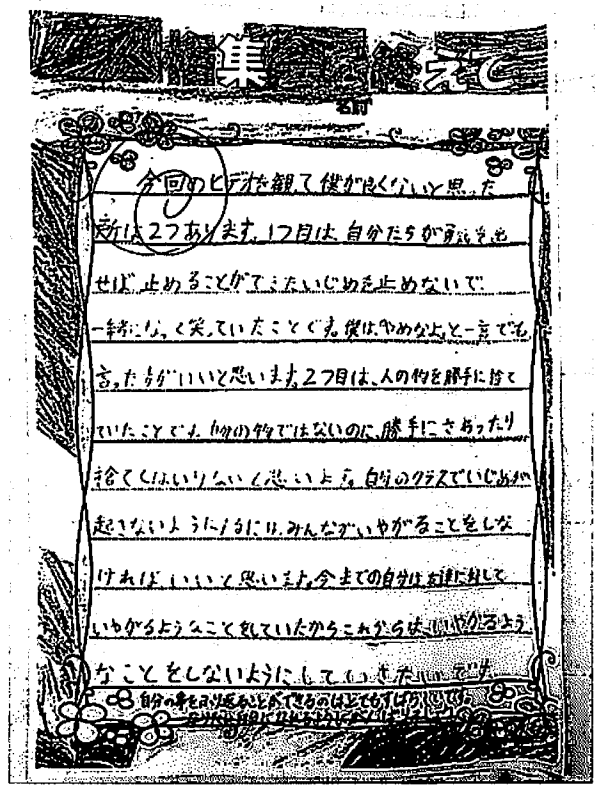
人権集会を終えて

名前（　　）

私は、このビデオを見てイジめられているのか、とてもかわいそうだなと思いました。私は、ようち園の時にかしらかイジメまじめの、動されていたのを思い出したから。でも私は、助けてあげれなかったのです。ぼうかとか、物をかくしたりとかは、なくて、仲間にれなかったりとか、かげロショたりとかをされていました。助けなきゃ、と思っているのになぜか足が動きませんでした。私は、あの時の事をこうかいしています。もしあだちか、イジメられていたら、助けようとあらためて思いました。

今度は、ゆう気を出して、こまっている友達を助けてあげよう

4年生



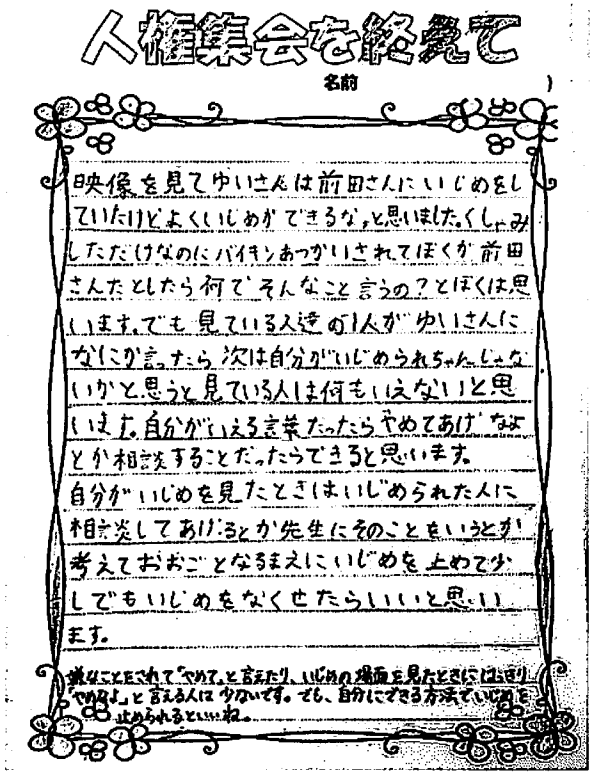
人権集会を終えて

名前

今回のビデオを観て僕が良くないと思った所は2つあります。1つ目は、自分たちが勇気をもせば、止めることができたいじめを止めないで一緒になって笑っていたことです。僕はやめなよと一言でも言ったらがいいと思います。2つ目は、人の物を勝手に捨てていたことです。他の物ではないのに、勝手にさわったり捨てくれはいりないと思いました。自分のクラスでいじめが起きないようにするには、みんながいやがることをしなければいいと思います。今までの自分は相手に対していやがるようなことをしていたからこれからはいやがるようなことをしないようにしていきたいです。

自分の事を言い返せないとめてもらえるのはとてもすばらしいです。一緒に相手に力を合わせてがんばりましょう。

5年生



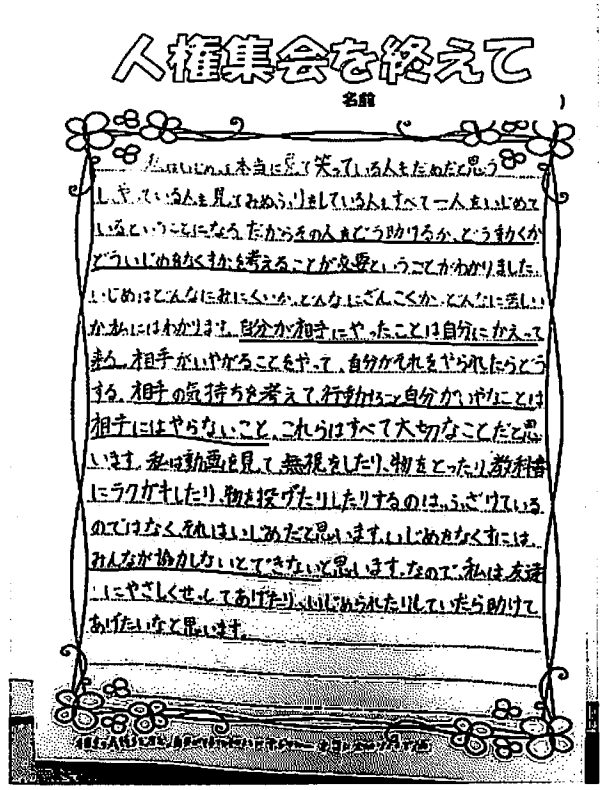
人権集会を終えて

名前（　　）

映像を見てゆいさんは前田さんにいじめをしていたけどよくいじめができるな、と思いました。くしゃみしただけなのにバイキンあつかいされてぼくが前田さんだとしたら何でそんなこと言うの？とぼくは思います。でも見ている人達の1人がゆいさんになにか言ったら次は自分がいじめられちゃんじゃないかと思うと見ている人は何もいえないと思いました。自分がいえる言葉だったらやめてあげなよとか相談することだったらできると思います。自分がいじめを見たときはいじめられた人に相談してあげるとか先生にそのことをいうとか考えておおごとになるまえにいじめを止めて少しでもいじめをなくせたらいいと思います。

悪いことをされて「やめて」と言えたり、いじめの場面を見たときにはっきり「やめなよ」と言える人は少ないです。でも、自分にできる方法でいじめを止められるといいね。

6年生



人権集会を終えて

名前（　　）

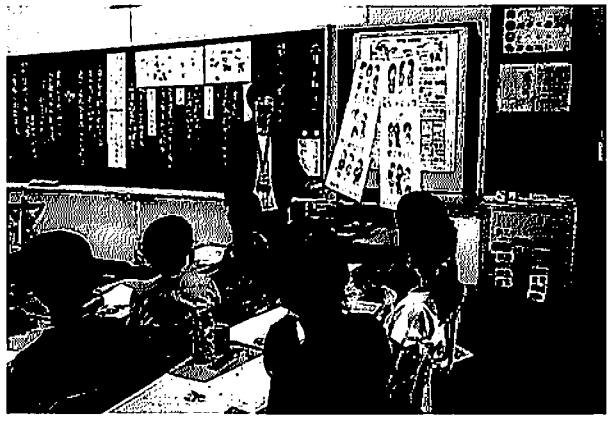
たいじめは本当に見て笑っている人をためだと思うしやっている人を見てはやしたりしている人もすべて一人もいじめている人ということになる。だからその人をどう助けるか、どう動くかどういじめをなくすかを考えることが必要ということがわかりました。いじめはどんなにれにくいか、どんなにざんこくか、どんなに苦しいかあんにはわかります。自分が相手にやったことは自分にかえってきます。相手がいやがることをやって、自分がそれをやられたらどうする。相手の気持ちを考えて行動しよう。自分がいやなことは相手にはやらないこと。これらはすべて大切なことだと思います。私は動画を見て無視をしたり、物をとったり、教科書にラクガキしたり、物を投げたりしたりするのはふざけているのではなくそれはいじめだと思います。いじめをなくすには、みんなが協力しないとできないと思います。なので、私は友達にやさしくせっしてあげたり、いじめられたりしていたら助けてあげたいなと思います。

相手に人権いじめをしないようにしようとしてもらえるようにがんばりたい。

第４学年２組　実践例

＜６つの場面絵＞

授業の導入時に黒板横に掲示し，導入と終末に「いじめ」は絶対いけないということを確認した。



＜学級に向けて書いた手紙＞

4年生としてスタートして、あっという間に　by Sakee
2ヶ月が経ちましたね。今日はこの道とくの授業でみんなに
考えてほしかったんです。今までの自分、これからの自分、友達のこと、
4の2という仲間のことを。きっとみんなから、今日のこのお話
のような場面のようなことがあったら、どうにかしたいって絶対
に言うだろうな…と先生は思います。でも、そもそもこのような
場面に状況にならないことが大切だよね。
ちょっとふりかえってみてください。仲のいい友だち、そうでない友だち
男子には、女子には…って人によって接し方、言葉づかい、態度
●変えてないかな？実はちっちゃなことの積み重ねで、
人間関係がこわれたり、逆にこわれたりすることもあります。
いじめって、ふだんのささいなところから始まっていくんです。
みんなで4月に重点目標作ったよね。その立てて目標のプラス
に近づくためには、誰に対しても思いやりの心やさしさ、ときに
は厳しくすることは大切だと言えるようにしてほしいなと思います。
もう6月。1年がおわるのはあっという間です。一日一日、そして、
今となりにいる仲間のことを～～～～～大切にしてください～～～～～～～～～～

<児童のワークシート>

プロレスごっこ①

㋐いじめ

えみの「みんな、どう思う！このプロレスごっこ！」と大声で叫んだときの気持ちとその行動について考えましょう。

みんなは、見て見ぬふりするだけで助けてくれない。
りょうまがかわいそう。
みんなはどう思ってるのかな。

あなたがこのクラスの一員ならどうしますか。

えみ みたいに三人組に注意してから
りょうまを助けてあげる。それで三人組に
自分がやられたらどんな気持ちになる？って
聞く

いじめをなくすために自分にできることはなんでしょう。自分の考えをまとめましょう。

見て見ぬふりをしないで勇気をもって
いじめがあったら止める
どんな人にでもやさしくせって、いじめのない
クラスにしたい
「いじめ」が生まれないようなクラスを作る
のも大切ですね!!

できたことに○をつけましょう。

- しっかりと考えられた。
- 意見を聞いて、新しく気づいたことがあった。
- これから大切にしたいことがわかった。

プロレスごっこ①

えみの「みんな、どう思う！このプロレスごっこ！」と大声で叫んだときの気持ちとその行動について考えましょう。

〈気持ち〉

・皆見てみぬふりは、ちょっとひどいよ
・ちょっとりょうまを助けてあげなくちゃ
・なんでプロレスごっこをしたのかな
・3人はりょうまの友達のはずなのにみんな
の友達じゃない
・3人はいじめを知らないの？
・あんなきけんなあそびする人達はこのクラスの人じゃない
・[illegible]
・[illegible]
勇気がない[illegible]

あなたがこのクラスの一員ならどうしますか。

・少しどうしようとなやんでしまう。
・いじめを始めた人にやめなよともう
・いじめられている人を助ける
・ちょっといじめられている人の話を聞く(どうしてやられたのかな)
・相手がしっかりした人だったら、こっちもちゃんと注意できたらあってみる。

いじめをなくすために自分にできることはなんでしょう。自分の考えをまとめましょう。

・真けんに、とくするまで、言い続ける。
・最初はどうしようかなやんだけど、とくさせないにもやもやするから、勇気を出して言ってみる。
・次からは本気でせ、とくさせて、やめさせる。
いじめを止めるときには、真けんに相手に注意ができるといいですね。

できたことに○をつけましょう。

- しっかりと考えられた。
- 意見を聞いて、新しく気づいたことがあった。
- これから大切にしたいことがわかった。

プロレスごっこ①

㋐いじめ

えみの「みんな、どう思う！このプロレスごっこ！」と大声で叫んだときの気持ちとその行動について考えましょう。

・りょうまさんがかわいそうだから見て見ぬふりをしていたみんなに「みんな！どう思う！このプロレスごっこ」と言った。
・大きなケガにつながる。
・自分だったらいやだ。
・見て見ぬふりはさびしい。

あなたがこのクラスの一員ならどうしますか。

・自分がまきこまれてもいいからその人を助ける。
先生に言う。
どうしてそんなことするのかを聞く。

いじめをなくすために自分にできることはなんでしょう。自分の考えをまとめましょう。

いじめをなくすために自分でどうしてすこしでも相手がやっているのがわかったら、注意する。
注意して聞いてくれなかったら 自分がやられたらどうするかできる。
役割演技のときに「自分がされたらどうなの？」と聞いていましたね!!

できたことに○をつけましょう。

- しっかりと考えられた。
- 意見を聞いて、新しく気づいたことがあった。
- これから大切にしたいことがわかった。

第６学年１組　実践例

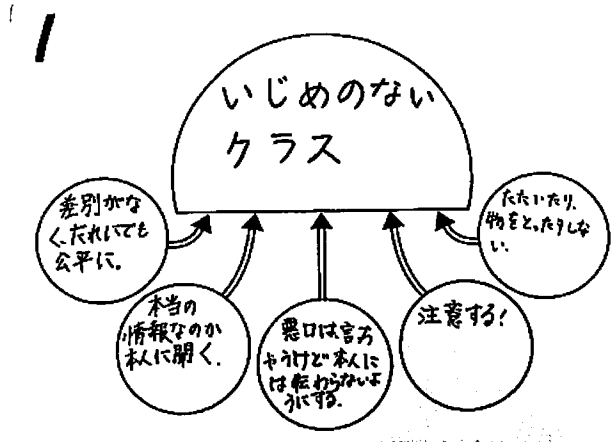
＜アンケート＞

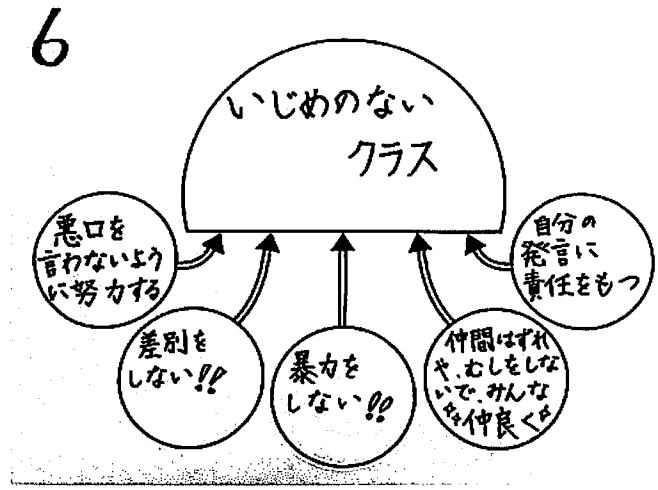
○「いじめ」はだめなことだと思う理由

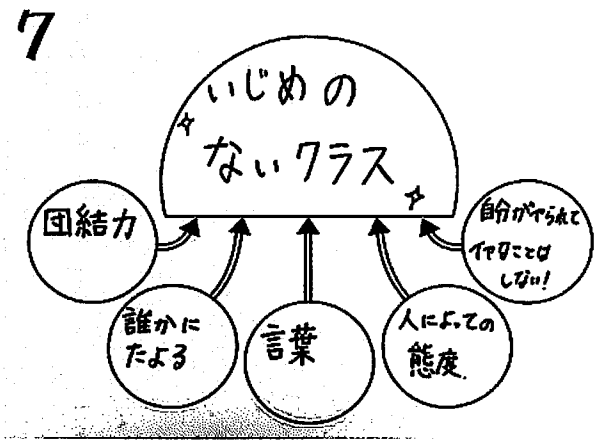
- **相手の心を傷つけるから　１９人**
- **命を奪うかもしれなから　１１人**
- **学校に行けなくなるかもしれないから　８人**
- **みんなが悲しい，嫌な思いをするから　３人**
- **ずっと仲が悪いままになるから　２人**
- **色々なことに自信がもてなくなるから　１人**
- **楽しいクラスじゃなくなるから　１人**
- **怖くて，誰にも相談できなくなるから　１人**

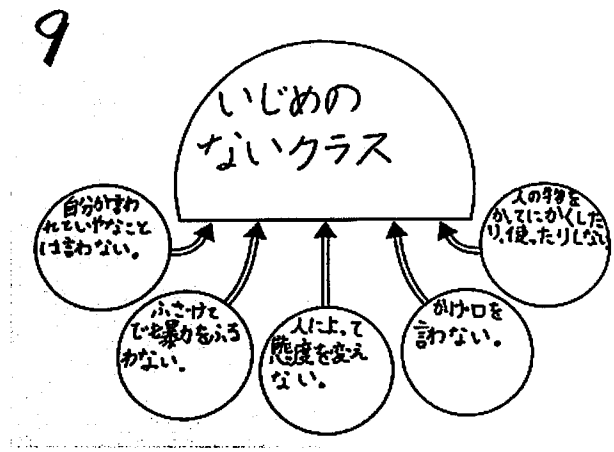
授業の導入時に黒板横に掲示した。６つの場面絵は４年生ときに行った授業と同じものを使用した。

＜思考ツール（クラゲチャート）＞





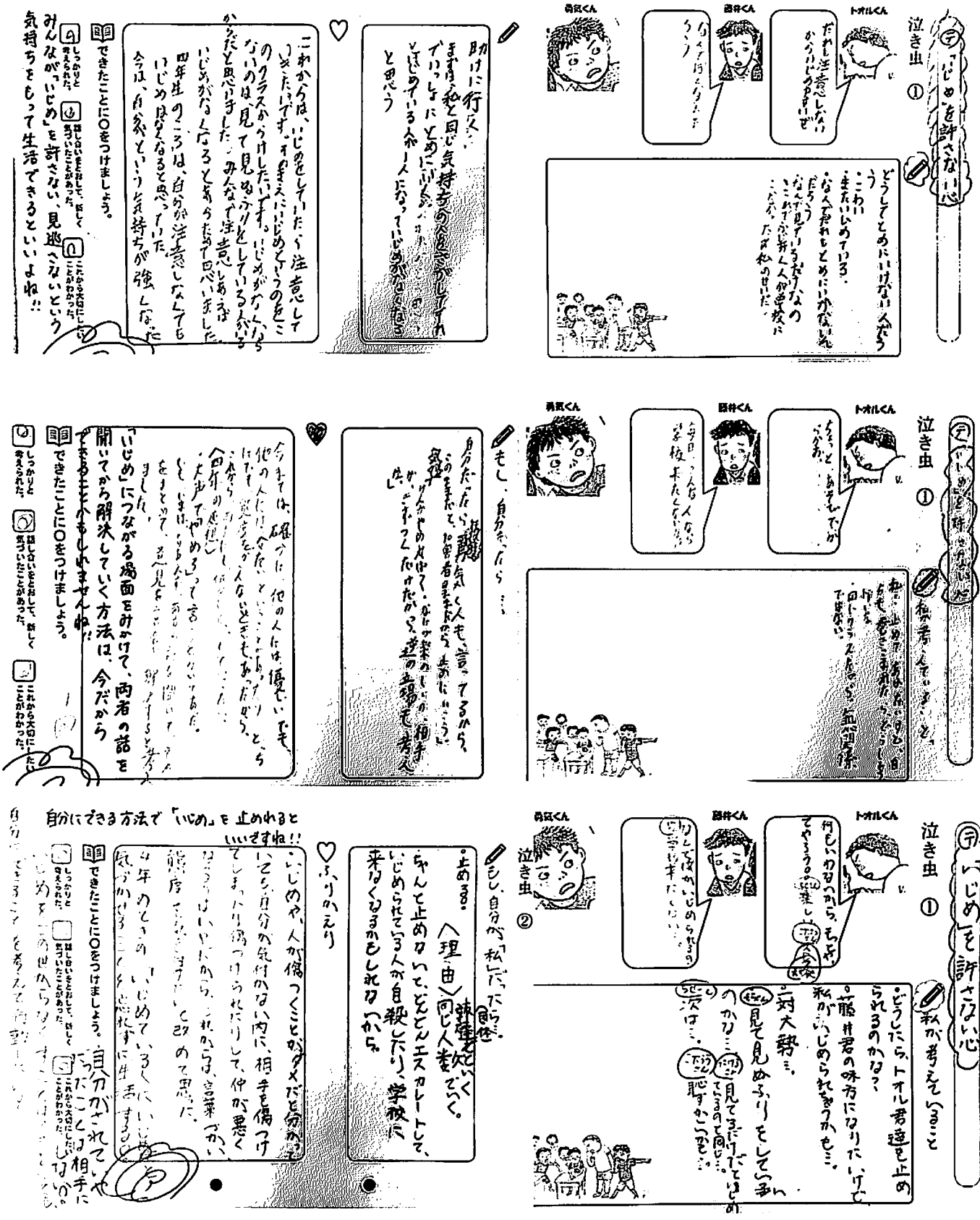




<終末で読んだ児童が書いた作文>

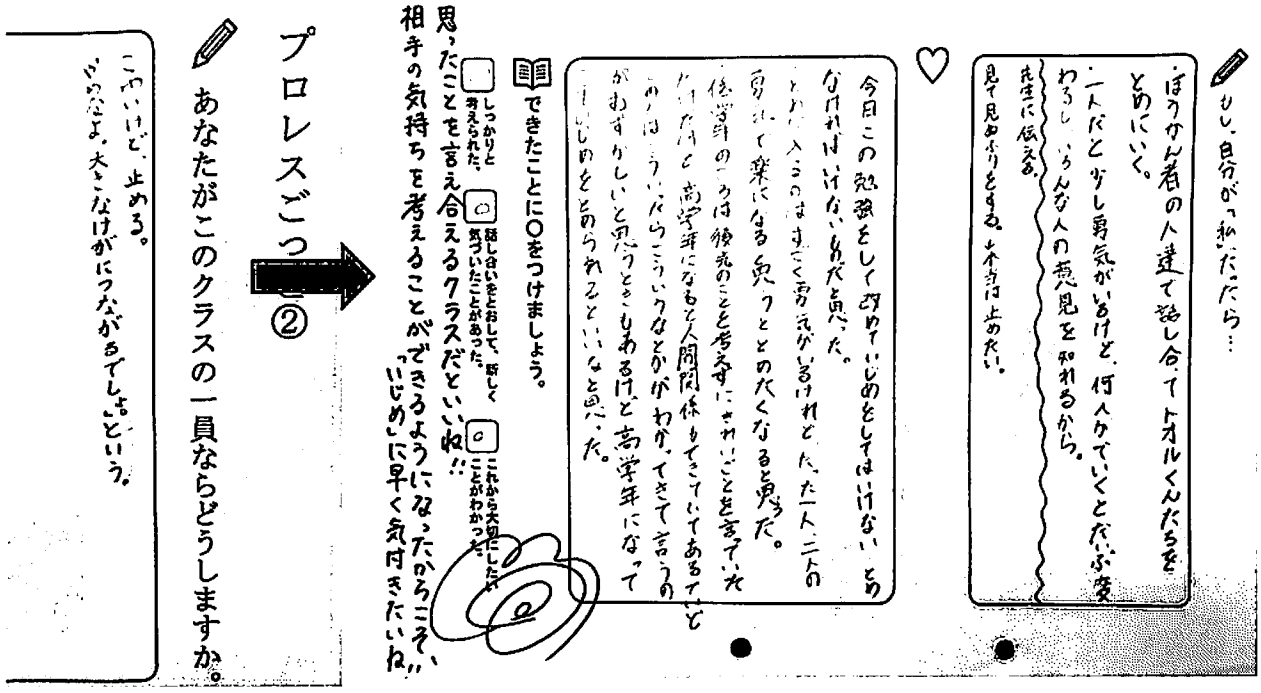
今のクラスは、少し差別があると思う。
自分と人によってたまに、態度を変えてしまうことがある。
かわいそうな人にって態度を変えている人がいる。
あの人には、すごくやさしいけど、あの人にはすごく
冷たくせっしたりしている。他にも、うらがけで
悪口をいっている人もたまにいる。でも、そうじゃない人もいる。
だれにでもやさしく、態度を変えずにせっし
ている人もいる。困っていたら、すぐにその人に声をかけ
やさしく教えている。
私は、これから、もっと悪口、差別などがなく、1人1人がいやな気持ちをしないいじめや差別などがないクラスにしていきたい。
これから、いじめをみつけたら、すぐに注意をしていきたいと改めて思った。
全員と仲よくするのは、むずかしいかもしれないけど、仲のいいクラスにしたい。そのために、自分でも、友達にたいする態度や言葉を考えてせっしていきたい。だめなことをしていたら、注意をする。
これから、いやな気持ちになる人がいないクラスにしていきたい。

<児童のワークシート>

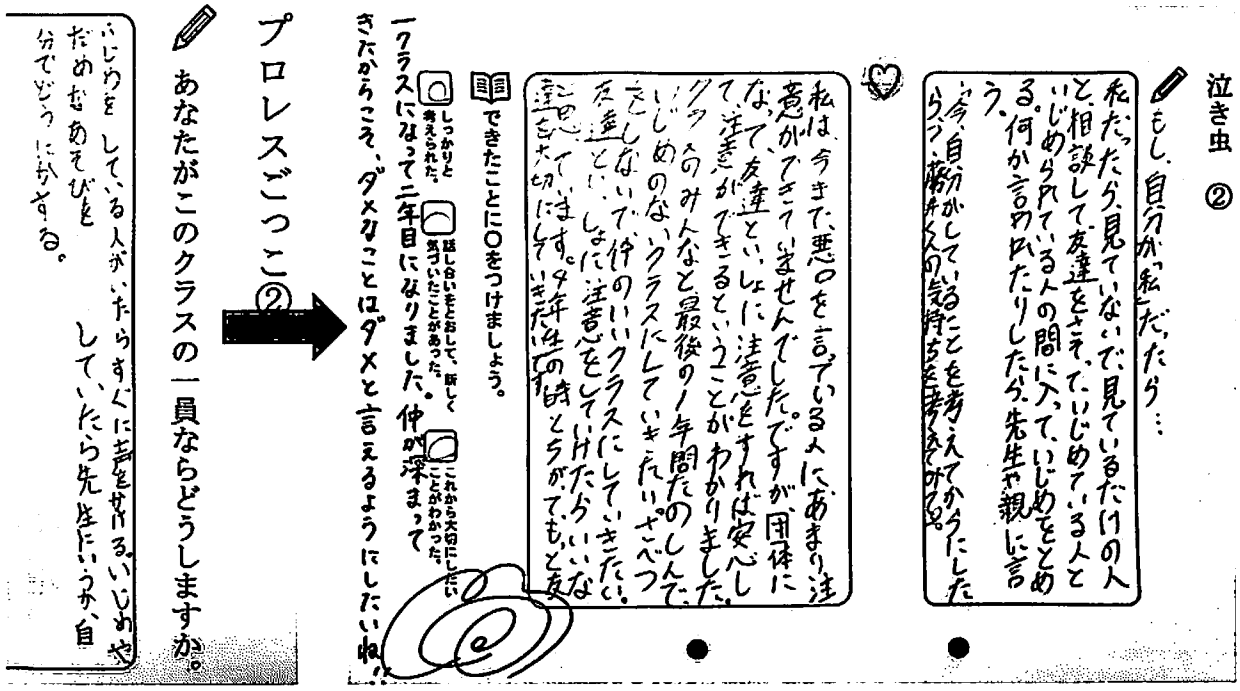

「いじめ」を許さない心
泣き虫 ①
トオルくん
器井くん
勇気くん
泣き虫 ②
私が考えていること
どうしてとめにいけない人なんだろう
ここわい
・まだいじめている。
・なんで誰もとめにいかないんだろう
なんで見ているだけなの
ここは学校人が学校だ
こんなたが私のせいだ
助けに行く
まずは私と同じ気持ちの人を探してみて
でいっしょにとめに行く
いじめている人が一人になっていじめがなくなる
と思う
これから、いじめをしていたく注意して
いきたいです。すぐまえにいじめというのをこ
のクラスからなくしたいです。いじめがなくなら
ないのは見て見ぬふりをしている人がいる
からだと思います。みんなで注意しあえば
いじめがなくなると思います。
四年生のころは、自分が注意しなくても
いじめはなくなると思っていました。
今は、自分という気持ちが強くなった
できたことに○をつけましょう。
みんなが「いじめ」を許さない、見逃さないという
気持ちをもって生活できるといいよね!!
もし、自分が、だから…
自分だったら
今までは、確かに、他の人には優しいけど
他の人にも、優しくできるようになりたい
「いじめ」につながる場面をみかけて、両者の話を
聞いてから解決していく方法は、今だから
できたことに○をつけましょう。
自分にできる方法で「いじめ」を止めれると
いいですね!!
・どうしたらトオル君達を止められるのかな?
・藤井君の味方になりたいけど
私がいじめられるかもこわい
・対大勢。
見て見ぬふりをしてる人
のかなこわい
見てるだけでもいじめ
になるのと同じ。
次は。
恥ずかしいかもこわい
・止める。
〈理由〉同じ人数でいく。
ちゃんと止めないと、どんどんエスカレートして、
いじめられている人が自殺したり、学校に
来なくなるかもしれないから。
ふりかえり
・いじめや、人が傷つくことがダメだと分かって
いるのに自分が気付かない内に、相手を傷つけ
てしまったり傷つけられたりして、仲が悪く
なるのはいやだから、これからは、言葉づかい
態度でもきをつけたいと改めて思った。
4年のときの「いじめていると、いじめ
気づかないうちに傷れずに生活する」
自分がされてやだったことは相手にしないこと。

＜４年生から６年生の児童の変容＞

○A児



○B児



○C児

泣き虫 ②

もし、自分が「私」だったら

・迷わずすぐとめに行く。
周りの人なんて気にしないでとめに行く。
「もうやめなよ。藤井くんが悲しそうじゃん。これで学校来なくなったらトオルくんの責任だよ」という。

今日の授業をして、やっぱりいじめはだめなことだと思いました。悪口を言ったらその人の心がきずつくにちがいない。仲間はずれは差別だと思う。むしゃ物をかくしたり、ぼう力、物を取り上げる、いやがることなどのこういはぜったいしない。四年生のころの考えは一人では言えないけど自分と他の人といっしょにいうと書いていて今の自分ではありえないことだなと思った。この6-1のクラスにいじめが一つもないいいクラスにしていきたい。

できたことに○をつけましょう。

◎ しっかりと考えられた。 ◎ 話し合いをとおして、気づいたことがあった。 ◎ 新しくこれから大切にしたいことがわかった。

四年生の頃は一人だと心配だったんだろうね…。
今は迷わず止めるという考えで成長を感じます。

プロレスごっこ

あなたがこのクラスの一員ならどうしますか。

・えみ見たいにいえないけどえみと自分と他の人といっしょにいう。

○D児

泣き虫 ②

もし、自分が「私」だったら

いじめを止めたいと思うので自分と同じ気持ちの人と、2～3人で止める。
理 一人じゃ止められないそうだけど何人かで止めれば止められると思ったから。

ふり返り

今日のテーマでいじめを許さない心は私にはあるかなと泣き虫を通して考えました。
私は、今日いじめを見かけたらどうするっの答えとして何人かの自分と同じ思いをしている人といじめを止めると考えました。でも、本当に止められるかわかりません。私は四年生のころはいじめを止めて注意する、と書いていたけど今はこのあとのこともこわいかなと思っています。だけどこれから差別なくだれにでも公平に接していきたい。

できたことに○をつけましょう。

◎ しっかりと考えられた。 ◎ 話し合いをとおして、気づいたことがあった。 ◎ 新しくこれから大切にしたいことがわかった。

一人だとなかなか勇気が出ませんが、同じように「いじめ」を止めたいと思っている友達を味方につけると止められるかも!!

プロレスごっこ

あなたがこのクラスの一員ならどうしますか。

えみ みたいに二人組に注意してから、りょうまを助けてあげる。それで三人組に自分がやられたらどんな気持ちになる？って聞く